

フィールドレポーター

掲 示 板



2010年度 第1号(6月) 通巻第59号

暮らしと自然とのかかわり合い

春から夏にかけては、すがすがしい風が花や木々の若葉を揺らす季節です。

この時期に琵琶湖畔や川辺を歩くと、季節の移り変わりを実感することができます。あちらこちらで満開の花や、水中の生き物の活発な活動が、季節の訪れを教えてくれます。季節の使者といえば、桜を思い起こします。私は春に海津大崎や長沢川辺の桜を見に行きました。桜のトンネルで湖岸を彩る海津大崎は、味わい深い魅力があります。そして橋の上から兩岸の桜を眺める長沢川沿いの桜並木は壮観なものです。これらの水辺に立ち並ぶ桜の風景は、それぞれに特徴があり、人々の心をなごませる魅力があります。特に、長沢川沿いは桜のシーズンになると、地元の方々が中心になって TENT をたて、夜桜見物をしたり、子どもたちが桜の下の川で水遊びをするなど、地域の人々の生活と密着する桜並木としても親しまれています。このような季節的にも楽しめる水辺は、身近な自然と水辺の暮らしとの結びつきを深く実感させてくれます。これからも、琵琶湖の色々なところへ歩いて行きたいと思っています。

皆様は、毎日の暮らしの中でどのような自然を魅力的に感じていらっしゃるのでしょうか。それぞれの身近な自然についても、ぜひ教えてください。琵琶湖博物館では皆様からの情報をお待ちしております。フィールドレポーター『便り』や『掲示板』への投稿は、電子メール(freporter@lbm.go.jp)もしくは郵送でお寄せください。

今年も引き続きフィールドレポーター担当となりました。今後ともご協力いただけますよう、宜しく願い申し上げます。

フィールドレポーター担当： 楊 平

***** もくじ *****

1	巻頭言	楊 平	1p
2	新館長からのごあいさつ	篠原 徹	2p
3	C 展示室 フィールドレポーターコーナー展示更新	スタッフ	3p
4	今年度交流会の実施報告	スタッフ	4p
5	フィールドレポーターのご意見紹介	楊平 & スタッフ	7p
6	キイロテントウムシのサンプル提供依頼	八尋 克郎	8p
7	新種のモロコ	FRS おおなまけ	9p
8	紀行「金子みすゞ記念館」を訪ねて	多胡 好武	10p
9	近所のカンサイタンポポ(?)調べ	椛島 昭紘	12p
10	プライバシーの無い巣箱、他7件の投稿	加固 啓英	13p
11	ミノムシ多数発生	水相 修躬	17p
12	ボタンウキクサ調査が論文に	前田 雅子	18p
13	予定・編集後記		19p



「新館長からのごあいさつ」

2010年4月から琵琶湖博物館の二代目の館長に就任しました篠原徹です。フィールドレポーターおよびフィールドレポーター掲示板の読者の方々にごあいさつ申し上げます。琵琶湖博物館の特長として博物館と利用者との双方向的な交流を積極的に進めるといったことがあります。その利用者主体の事業こそが「フィールドレポーター制度」であり、「はしかけ制度」であります。この先進的なフィールドレポーター制度の窓口になっているのが掲示板であります。二代目の新館長としてごあいさつできる機会が与えられたのは光栄です。よろしくお願ひしたいと存じます。

滋賀県というのは比良山系や鈴鹿山系、それらの山々から流れる大小の河川、そしてなんととっても琵琶湖という日本最大の淡水湖を抱えた自然に恵まれた地域であります。同時に歴史や文化の堆積した町や村や都市のある地域でもあります。フィールドレポーター制度に関わる人びとは、おそらく無類の自然好きや歴史好きなんだろうと思います。滋賀県がそうした人びとの格好のフィールドであるだろうことは想像にかたくありません。そうした人びとのもたらしてくれるフィールドレポートは博物館の貴重な財産であるばかりでなく、私たち博物館の館員ひとりひとりにとって貴重で有意義なものであると思います。

実は私自身も無類の自然好きの人間であります。生物学や歴史学の専門家ではありませんが、自然好きということに関しては決して負けないと自負しております。現在、俳諧や俳句に表現される自然や環境に強い関心をもっておりますが、近江を舞台にしたそれらの詩歌の詠われた場を歩いてみることから始めてみようと思っております。

このフィールドレポーター制度への参加者が、身近な地域の自然や環境に関心を持ち、興味を広げていけるように願っていますが、私自身もフィールドレポーターの方がたとともに歩いていけるようにしたいと思います。

C展示室 フィールドレポーター展示コーナーのリニューアル 「テントウムシを調べましょう」の報告展示になりました。

目玉展示は「テントウムシの標本」です。フィールドレポーターの皆さんが、昨年初夏から半年かけて採取していただいたサンプルを、調査担当の杉野さんを中心に森さん始めスタッフにより、まとめられた貴重な標本です。

また、皆さんからお寄せいただいた写真を「テントウムシ アルバム」にして展示しました。

「滋賀のテントウムシ」の展示はフィールドレポーターだより「テントウムシを調べましょう」に報告した結果です。

みなさんぜひ、琵琶湖博物館のC展示室へお越しください。そして展示をごらんください。

なお、定例会の開催日時には交流室にもお立ち寄りください。お待ちしております。



2010年度フィールドレポーター交流会の活動報告

年度初の恒例になっております交流会は先にご案内のとおり 5月15日(土) 午前10時から午後2時にかけて、会場を琵琶湖博物館会議室、参加者21名(学芸員の方 7名、フィールドレポーター 12名、その他新聞社の方2名)で実施しました。報告は2件(テントウムシ調査の報告と「近江ことば いま むかし」調査)で、参加者の活発の意見交換により有意義な交流会になりました。

最初に交流ご担当の桑原専門学芸員より、「フィールドレポーターは博物館と地域を深くつなぐ大きな役割を持っている。今日の交流会活動をいろいろな地域でやれば、いろいろな活動が楽しくやっていただけるのではないかと考えている。今後とも皆さんにお世話になりながら、活動を広めていきたい。」とご挨拶を頂戴いたしました。以下に2件の報告について、詳細な内容を報告します。

1. テントウムシ調査の報告

案内には調査を担当した杉野さんが報告するようになっていましたが、事情により急遽欠席されましたので、森さんが代わって報告されました。コメンテーターは八尋専門学芸員にお願いしました。報告はプレゼンテーション資料使って行われ、参加者には配布済みのレポーターだよりの資料を手元に準備しました。質疑応答では活発な意見交換ができました。そして、今回の調査については色々な機関から関心を持たれているので、結果を公開する準備をする、と報告がありました。この後 C 展示室のフィールドレポーター展示コーナーに移動して、今回皆さんから寄せられた、テントウムシの標本、写真、調査結果を見ながら意見交換をしました。結果を次表にまとめました。

質問	回答
● ナミテントウムシの斑紋が北の方に行くほど紅型多くなる理由は	紅型は表面が赤茶色で太陽光で体が温められにくい、黒地の方は体が温められやすい。紅型は北の方で増える。南の方では、夏は気温が高く、テントウムシ全体が休眠するので紅型の必要もなく、黒地で過すので南は黒地の割合が多い。
● 今回の報告に南の地方のデータがないですが	島根県立三瓶自然館の報告(2008年)には南の方のデータがあります。1956年駒井氏調査報告では二紋型の割合が広島=70%、福岡=83%と多い。
● 京都の結果と一致するのは当たり前のような気がするが。	結果としては当り前のようですが、滋賀県のデータがこれまではありませんので、今回の結果は一致することが確認できたのは意味がある。
● 都会と田舎でテントウムシの種類に違いがありますか	山にいる種類、都会にいる種類と違いがあります。たとえば葦原にいるテントウムシもいるので今回は捕まっていませんが調査地点を増やしてみるの面白いと思う。
● 食性の違うテントウムシがある。	益虫といわれる、虫やカビ(ウドンコ病、カイガラムシ)を食べるもの、害虫としてナスやホウズキの葉を食べるものなど。今回見つかった外来種のツマアカオオヒメテントウはオーストラリア原産でカイガラ虫の防除に導入された種類。
● 他にも外来種がいますか	12種の外来種がカビの防除に導入された。
● いろいろな紋型ができるのは、交配の仕方によって種類が決まるのでしょうか。	遺伝的な研究として使われたりして、報告があります。種類関係無く交配し、交配したときに優劣関係があって、四つの遺伝子の内優位の順が「二紋型」>「四紋型」>「斑型」>「紅型」です。

● 種類の誤同定が少ないように思うが	今回では10%前後と少ないと思う。理由は良くわからないが。報告者の数が41でしたので、資料を良く注意して見た人が多かったのかもしれない。
● テントウムシの分布影響について	食べる物との関係が分布に影響していると思う。琵琶湖の北と南で種類が違うのではないかと、更に調査地点を増やして調査をして見ると画期的な結果が得られるのではないと思われる。
● キイロテントウムシの個体採取のお願い。	今回の調査の反響として、京都産業大学の高橋さんから、ご研究されているキイロテントウムシに関して、滋賀県の個体を調べてみたいということで、採取の協力依頼がありました。対応することにしますので、皆さんもご協力お願いします。

2. 「近江ことば いま むかし」 調査の報告

報告は調査担当の村上さん、コメンテーターには用田上席総括学芸員にお願いしました。報告はプレゼンテーション資料を使って行われ、参加者には発表資料のコピーを手元に配布した。報告の後、用田さんより「自分もこの調査に参加して見たのですが、知らない言葉が多かった。」とコメントをいただきました。今回の調査は反響も多く、388件調査票を提出していただきました。また、調査に参加された方から多くの参考資料、地元での調査結果を送付して頂きましたと報告がありました。結果を次表にまとめました。

質問、意見	回答
● 京都、大阪で育ちましたが滋賀県の近江ことばは当たりが柔らかい、親しさや、ゆっくりと話せると感じた。	
● 現在も使われているランクの高いことばは生業、社会活動、に分類されている語彙のようですが。	地域で昔から続いている活動、行事に関することばが現在も残っているようだ。
● 「ナオライ」は近江ことばなのか、他の地域ではどう言うか？	打ち上げ、寄り合い、ご苦労さん会とか言わないか。「ナオライ」には宗教的な意味合い「精進落とし」のような意味合いがあるのではないだろうか。
● 大津と湖北のちがいと、大津と京都の違いはどのくらいの差がるのか？大津は京都くらいと括れるのでしょうか？	参考資料によると、大津市内のことばは京都の庶民のことばと変わらない。そして大津市から離れていくと違いがでる。西は若狭、東は三重・岐阜の言葉が入っている。そして、湖北はお公家さんの言葉が残っていて、高島市朽木にもお公家さんの言葉が多く残っている。キャンズ、シヤンスは京都の花街の言葉など。また、彦根周辺は彦根と米原では違うというように、ことばの種類、使い方で違うのであって、地域で括るのは難しいのではないだろうか？

3. 今年度の調査の「イチョウウキゴゲを探そう」を前田さんから紹介

イチョウウキゴゲは準絶滅危惧種ですが、滋賀県であちこちで見られるのではないかと。また、アゾラは特定外来生物、シャジクモと一緒に調査したい。イチョウウキゴゲとアゾラの現物の紹介をされました。

4. その他

今回交流会には朝日新聞、読売新聞から記者の方が参加され、熱心に質問および意見交換されていました。

今回の交流会についての新聞記事です。フィールドレポーターの活動に新聞社が関心を持っていただいているに様子が伺えます。

読売新聞の5月16日記事



朝日新聞の5月21日記事



交流会会場風景



2010年、フィールドレポーター再登録アンケートに書いていただいた、
調査希望項目、ご意見のご紹介(順不同)

楊平、スタッフ

♥溜池の調査は、どうですか。

いつも湖北地方の調査の密度が少ないのは、残念です。湖北地方は自然が多く残っていますので、調査には、大切です。

♥空地の変化。自然に対する人間のかかわりによる状態変化を経年的に捉えていくこと。昭和 55 年 7 月小型の蛍が水田の入り口付近に沸き上がるよう発生した。付近には河川が全くなく、愛知川ダム水源地から卵が流れてきたのか。たった一年の不思議な現象があった。農地水環境の仕事をしている。子供たちに環境学習を指導しているが、参考図書があってもサンプルが図書の名前に合致しているか判らない。サンプルがないと判らないので、DVDで鳥や魚、昆虫、雑草など身近なものの名前を覚えられたら、子供たちの科学への感心が進むように思う。

♥近江ことばの方言についての調査の時、余白に信楽の方言について調べたことを書いておきましたが、増井先生の研究に役立てばと思っておりますので、届けていただければ幸に存じます。

♥近江言葉、盛り上がり、面白かったです。

レポーター交流会に参加する機会がないので、各レポーターの趣味、年代、職業、他の活動など、レポーターの紹介コーナーをやってみてはどうでしょうか。

調査票にはあまり参加できないので、レポーターだよりなど、必ず読んでいます。

♥蝶、蜻蛉など身近な小動物。

本年 1 月に近江ことば調べに興味をもったのをきっかけに入らせていただいた。見たがりや知りたがりやの私ですが、レポーターがつとまりますかを懸念しています(年齢に)一応交流会に参加させてもらってから掲載のことを考えます。

♥私は道標調査を継続してやっている。

原稿の〆切日を設定してほしい。交流会は日曜日を希望したい。メール便の発送日がわかるようにしてほしい。遅配されてもわからない。

♥外来植物、ナガエツルノゲイトウ、ミズヒマワリ。

はしかけの情報が2ヶ月に一回になり、たいへん不便している。FRも同様で月に1回ずつ情報がほしい。でないとコミュニケーションが成り立たないと思う。

♥蝶について調査したい。 ♥たんぽぽ、めだか、オオイヌノクブク、春の七草など。

♥竹(特に孟宗竹の拡大変遷)の地域の拡大状況。 ♥桜の樹齢 ♥蜻蛉、コケ、紅葉。

♥たんぽぽ調査希望 ♥かえる、雀、いもり、たがめ。 ♥イチョウウキゴケ、橋の名前。

♥なんも活動してなく、すみません。いただいた情報は楽しんで読ませてもらっています。

♥甲虫の生態。

「フィールドレポーターだより」により、滋賀の自然に関して大いに啓発されます。

琵琶湖博物館の文書は、いつでも楽しく目を通しています。フィールドレポーターに取り組もうと「手をつけかけてまとまらない」そんな状態が続いています。いつか出したいと願っています。

♥蛍、蜻蛉、鳥。

私は熱心なレポーターではないが、この作業について同じ仲間と交信ができると楽しんでいるので、掲載することにした。

♥会員が増えたので、できれば多くの方が交流会に参加しやすい方法を考え、実施してほしい。

(登録アンケートに記載していただいた貴重なご意見です。皆さんにもご紹介した方が良いと判断し、お名前を伏せてご紹介させていただきました。)

キイロテントウのサンプル提供依頼

先日、京都産業大学総合生命科学部の高橋純一さんという方から昨年進めていた滋賀県のテントウムシ調査のことでお聞きしたいというメールが楊さんと私にありました。

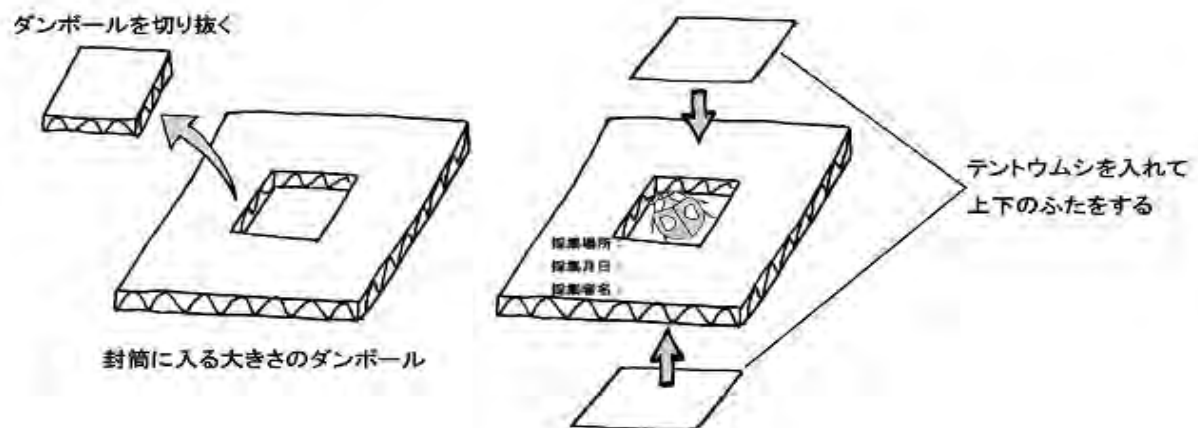
高橋さんは、キイロテントウの菌食生態について興味があり研究をしたいと考えておられ、全国からキイロテントウを採集して遺伝的変異や保有するうどんこ病菌との関係についてDNA解析をしたいとのことでした。

つきましては、フィールドレポーターの皆さんに今後調査などでキイロテントウを採集した場合にサンプルの一部を提供していただきたいという依頼内容です。フィールドレポーターの皆さんにおかれましては、今後の調査のついでで結構ですので、キイロテントウを見かけられましたら採集しておいていただけないでしょうか。サンプルは、できれば菌が共生しているかどうか確認したいので、生きたままこちらに送っていただけるとありがたいのですが、死んだ個体をまとめて提供ということでも構わないそうです。

テントウムシの送付方法は、テントウムシ調査の時と同様に、採集場所、採集年月日、採集者名を忘れずに記入して以下の通りでお願いします。

<標本の送り方>

1. ダンボールに採集場所、採集年月日、採集者名を記入して下さい。
2. 採集場所、採集年月日がおなじの標本は、複数頭まとめてホルダーに入れて下さい。採集場所あるいは月日がことなる場合は、別々のホルダーに入れて下さい。



八尋克郎（琵琶湖博物館 専門学芸員）

このパックを見た時、なぜかおかしい？と感じ、「羊頭狗肉」の文言が閃いた。

モロコと名付けているが、パックされている魚は、私の記憶にある姿とは違い、図体が大きいのだ。私の識っているモロコは、もっとスマートで、小鮎を太らせた感じの魚体だ。頭にハスと付けているから、私の識っているモロコではないことは確かだろう。では、ハスモロコという新種が琵琶湖に生息しているのか？私の、琵琶湖博物館での少ない見聞ではあるが、これまでこの名前は聞いたことが無い。早速このパックを持ってレジに並んだ。



戦前、比良の峰のあちこちに雪の残る春3月、小学校の春休み前から、赤野井湾に注ぐ川に、モロコの産卵遡上が始まり、マコモの茎などに卵を産み付けるモロコの姿があった。そこを狙って釣り竿を出し、餌を垂らすのだが、彼等は赤虫を付けた餌には関心を示さず、バシャバシャと産卵に懸命だった。

毎年、春先になると、モロコ釣りが楽しみで、3月下旬近く誰かが、「もう釣れ出したでえ…」と言いだ始めると、気もそぞろで、早く行きたいのに、家の手伝いばかり言い付かって、釣りに行けないのだ。早く行かないと、みんな釣り上げられそうな焦りが生まれ、用事ばかり言いつける親が恨めしかった。そんな時、幸い天気も良く、風も強くない日曜日が訪れた。早速、竹竿の先を自転車の荷台から後ろに泳がせ、サドル下からフレームに、竿の手元部分を括り付けて、懸命にペダルをこいで赤野井湾に向かうのだ。

誰かが釣り場にしていた跡が、あちこちにある。去年も竿を出した岸辺に着くと、そそくさと針に赤虫を付け、マコモの隙間に落とし込むのだ。

そんな時、決まって直ぐ横でバシャバシャと、モロコが水しぶきを上げるので、つられてそちらに竿を移すのだが、これは絶対と言っていいほど釣れた験しがない。

彼等は餌などには見向きせず、ひたすらマコモの茎などに体軀を摺りつけて産卵に懸命で、稀に針に触れて浮きを沈めるが、それでも滅多に釣り上げることはなく、逃げられてしまう。でも、その瞬間の達成感は大きく、竿先からビツ、ビツと伝わってくる感触だけで満足していたものだ。

湖上を吹きぬける比叡下しをよけて、イナハサに躰をもたせかけ、太陽のぬくもりを受けながらのぐうたらな釣人は、太公望とは無縁で、いつも釣果は無残なものであった。

しかし春先の湖岸での、楽しい思い出として鮮やかに残っているのが不思議だ。

モロコは、かつての釣りの対象として、私が親しみを感じている琵琶湖の魚なので、見まごうことはない。いま幻の魚になり、希少価値が生まれ、養殖が行われている。

さきの佃煮を、琵琶湖博物館で、魚類担当学芸員や、魚関連のFRSに確認・試食してもらった結果はいうまでもなくモロコにあらず、ハスであった。

モロコと名前をつければ売れると、小賢しい商売人が、ハスの幼魚を煮ると、ハスモロコになるのか？似て非なるもの、即ち、ハスモロコなり。市の農産物販売所で、琵琶湖産ハスモロコを買った方が、モロコとはこんなものと、誤った認識を持たれることを懼れる。

私が金子みすゞの詩に接したのは定かでないのですが、その詩のあたたかな表現に衝撃をおぼえ、どのような環境に育てばこのような詩が生まれるのか？機会があれば一度は訪れたい場所の一つでした。先般ドライブ旅行の機会があり、それならと金子みすゞの育った長門市仙崎や青海島を訪ねました。

【 金子みすゞのプロフィールは・・・

明治 36 年(1903 年)山口県大津郡仙崎村に生まれる。本名金子テル、大正末期、すぐれた作品を発表、西條八十に「若き童謡詩人の巨星」と称賛される。昭和 5 年(1930 年)26 歳で没す。平成 15 年に幼少期を過ごした金子文英堂跡地に「金子みすゞ記念館」がオープン。遺品やギャラリーなどで彼女の生涯や生きた時代を偲ぶことが出来るようになっています。(5 年間ほどで 500 編を超える詩が生まれています) 】

大きいとはいえない仙崎の町ですが JR 仙崎駅には「みすゞコーナー」が設置されていたり、記念館が面している町の中心通りは「みすゞ通り」、胸像や詩碑も建立され町のあちこちで彼女を偲ぶことができます。



《再現されたみすゞの部屋、2 階の 4 畳半》

記念館には多くの方が来館されており、比較的若い世代の人が多いうように思いました。

彼女は子供から年寄りまでその読者の感性により、様々な感情を与えるような心に響く詩を書き、全国に多くのみすゞファンがいるのは頷けます。

また同時代活躍した詩人では北原白秋(あわて床屋、ゆりかごのうた、砂山、からたちの花、ペチカ、待ちぼうけ、この道)、野口雨情(十五夜お月さん、赤い靴、七つの子、青い目の人形、しゃぼんだま、あの町この町)、西條八十(かなりや、お山の大將、お月さん、肩たたき)などが今に残る愛唱歌を発表しています。彼女のみならず、何故この時代素晴らしい詩が多いのか？これは時代背景、すなわち誰もが自由に生き生きと思想や感情を表現し、謳歌するという新しい時代(大正デモクラシー?)の中だからこそ生まれた詩では？そうした時代の中だからこそ金子みすゞの詩才が開花したのでは？

当初私はみすゞが生み出したやさしさに溢れた詩の発想の不思議を、その原点を知りたいと思つての記念館や仙崎探訪でしたが、記念館資料やその時代の童謡が今に沢山唄われていることを想うとみすゞは文化維新幕開けの時代に遭遇、桜花のように散った詩人だったのでしょう。

最後に私の好きな 3 編を紹介します。皆さんの心にはどのように感じられるでしょうか？

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、

お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のように、

地面（じべた）を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、

きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴は私のように

たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがつて、みんないい。

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、

海の小石のそのように、

夜がくるまで沈んでる、

昼のお星は目に見えぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものでもあるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、

瓦のすきに、だアまって、

春のくるまでかくれてる、

つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものでもあるんだよ。

お魚

海の魚はかわいそう。

お米は人につくられる、

牛は牧場で飼われてる、

鯉もお池で麩を貰う。

けれども海のお魚は

なんにも世話にならないし

いたずら一つしないのに

こつして私に食べられる。

ほんとに魚はかわいそう。

表 題【近所のカンサイタンポポ(?)調べ】

投稿日【2010.6.15】

名前【草津市 椋島昭紘】

タンポポ調査を兼ねて、2月頃からタンポポを観察していると、旧草津川～草津川～金勝川合流する辺りですが、総苞外片が上向きの在来種のカンサイタンポポらしいのが多いことに気がきました。サンプルは採取して調査票に添えて提出しました。

そこで花を良く見ていくと、総苞外片の長さにちがいがありそうです。それで総苞の長さを測ってみました。4月26日、5月3日、の2日間、日差しが傾きかけた16時頃、頭花の写真を50円硬化と一緒に撮影した後(下図)、64個の総苞の全体長さ、外片の長さ、頭花の大きさを測定してみました。

その結果は次の通りです。(下図)

- 1、総苞の全体長さは平均で15.4mm、外片の長さは平均6mmでした。
- 2、外片の長さは全体長さの比率は平均39%でした。その分布は20%～50%ということがわかりました。タンポポ調査報告ではカンサイタンポポは1/2以下とされているので、一致します。
- 3、頭花の大きさは2.5cm～3.5cm位の大きさでした。
- 4、角状突起の長さは1mm以下でした。



以上の通りで、調べた旧草津川、金勝川周辺の総苞外片が上向きのタンポポはカンサイタンポポの特徴をもっているようです。64個のタンポポは多分カンサイタンポポと思いますが、改めて総苞外片長さの比率分布が広いことが判りました。

(注; 外片長の比率(%) = 外片長 ÷ 全体長 × 100)

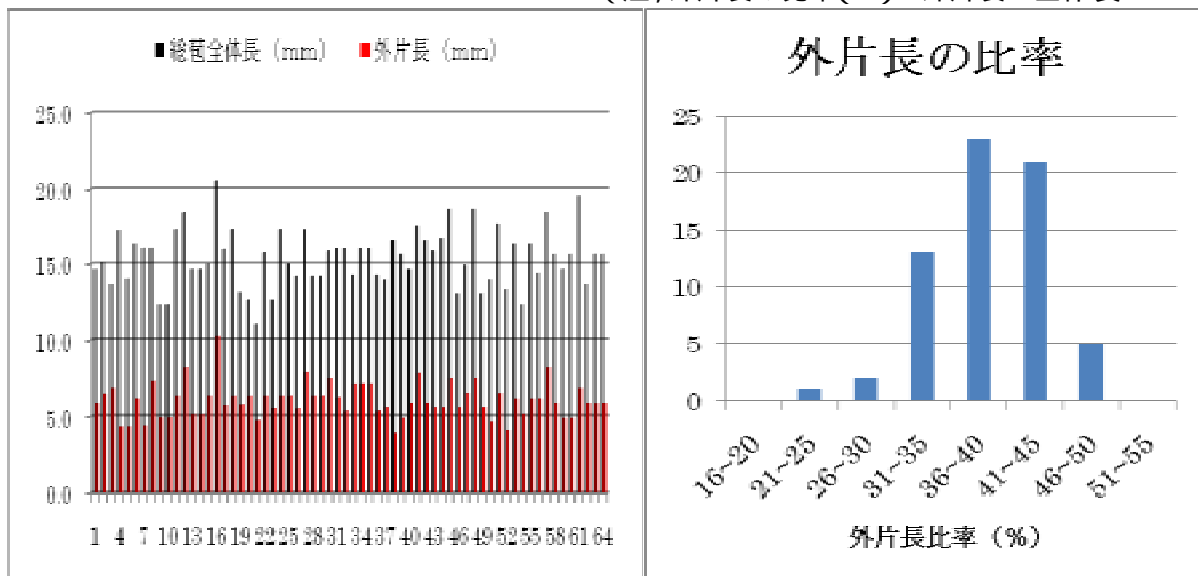


表 題[プライバシーの無い巣箱]

投 稿 日[20100220]

名 前[彦根市 加固啓英]

簡単な機織の器具を作りかけましたが、縦糸の取りまとめ機構がの良い案が思いつかず
にペンディング中に、野鳥の巣箱作りに転進。(cf→*)

玄関のドア用のCCDカメラで室内に居ながら野鳥の観察の出来る巣箱の製作に取掛か
っています。問題は過去に庭木に付けた巣箱からは6個に1個程しか営巣・育雛しなかつ
たのです。今回はカメラが高価なこともあり、1個のみとします。野鳥の住宅事情にもより
ますが、多分1個だけだと選択の余地が無いので住み付けてくれそうに思うからです。板の
部品の切りそろえは終わりましたが、室内で出来ない作業がそっくり残ってしまいました。

明り取りに側面の板壁の上半分を半透明なプラスチック製とし、内面を白く塗装する心
算ですが、悪天候が続き足踏み状態です。つくづく昔の家の敲きの土間の様な屋根の有る
多目的作業エリアが欲しいと思います。

* 旧日本軍の用語で「退却」の意味。

表 題[なんとも厄介！生物学と和名(その3)]

投 稿 日[20100218]

名 前[彦根市 加固啓英]

前回分を見直したところキーインミスや脱字を多数発見、以後注意します。

ボケ属トマルメロ属→ボケ属とマルメロ属、五界説の生物の祖の原核生物(原生核生物)
が記載もれ。(バクテリアや藍藻類、昔の生物学の知識での藻類・菌類、は再確認が必要)

アライグマについて補足しますと、アメリカで物を洗う習性としての観察記録を見たことが
ありません。川底のザリガニ類などを前足で探って獲ることと、ストレスを感じると自分の子
供を水の中でもみくしゃにして死に至らせる事例(代償行動)は知られています。

またややっこしい本題の和名に戻ります。

××ガラス。

数年前、カナダの北極圏の町イエローナイフに貧乏旅行のオーロラを見に行きました。

3日滞在中3回、帰りの機内からも1回見られ、天は貧乏人を差別しないことを痛感。

街のビルの谷間を悠々と飛ぶレイバンガラスをツアーコンダクターは日本のカラスの2倍
の大きさだと説明。だが私の目には精精1.3倍にしか見えませんでした。帰国後調べると
長さでは約1.3倍、・・・と云うことは体積では約2倍、両者痛み分け。

ちょっと寄り道。

動物の大きさはどの様に表記すべきか？ サンプルの固体の計測の様に台の上にねか
せて頭胴長を測るとサギ類などは他の鳥類に比べて断突に大きいことになり、まさに「サギ
行為」の「誇大広告」

目撃情報の大きさも当てにはならないです。TVでイノシシが民家に現れたとの映像の有
る報道。狩猟経験の有ると言う目撃者が「大きい！2mは超えていた」との話。私の見立
てでは約1.4m。射殺されての計測値は1.4mで私の勝。話半分か話平方根か話立方
根。前世紀末か今世紀始めのテレビで、頭のネジが弛んだ様なイギリス人と共に10m以
上ある蛇を捜し歩くドタバタ番組がありました。番組自体は見るに耐えないアホ臭いもので
したが「10mの蛇」が気になりました。50年以上前にニューヨークの博物館(名前は失
念)が33ft以上の蛇に円換算で当時では巨額な100万円程の賞金を掛けたのです。それ
以前は世界中の湿原、熱帯雨林、で30m、50m、のボアやアナコンダがひしめき合っ
ていた筈なのですが、どこからも超10mの報告無し。たまに持ち込まれるのはローラーで引

き伸ばした固体。この話がまだ続いているとは！いかにこの33ftの線引きが絶妙だったか、ぎりぎり届かない報告が多数。

××カラスの話に戻ります。

ハシボソガラス、ハシブトガラス、ワタリガラス、ミヤマガラス、レイバンガラス、等は誰の目にもカラスですし、サイズや色の異なるホシガラスも系統的に××カラス。だがカササギやオナガは何故か仲間はずれ。

赤の他人（？他鳥）の黒いから××ガラスにウミガラス、カワガラス、ややっこしいのにオオウミウガラス（多分外国の鳥。これぞ鶺鴒のまねをする鴉か。）

今回はここまでとします。

* 皆様にお願ひ。NHK高校講座ではアメリカのピッチ層からの化石哺乳類の発掘現場や、代表的な地層の現場や大規模な実験装置等々の映像が見られるのですが、時間の都合も付きにくく、ノートも取れません。そこで巻き戻しの出来るDVDソフトが欲しくメールで問い合わせましたが市販する予定は無いとのこと。皆様にも是非見ていただきたい場面が満載ですので、皆様からのNHKへのe-Mailでの要望の一齐送信でこれが入手出来る世論を作って頂きたく、御協力をお願い致します。

表 題[津波の後で]

投 稿 日[20100301]

名 前[彦根市 加固啓英]

私は霞ヶ浦・利根川水系の茨城県土浦市の出身ですから日頃から琵琶湖・淀川水系との類似点・相違点を 体感しております。今回のチリ地震による津波で利根川河口より16km上流で水位が40cm上昇したとの報道が有りましたが、今後見守って頂きたいのが海水の逆流の見られた河川でのシジミの増殖傾向です。目だった被害も無くシジミが安価に食べられることはチリの人々には申し訳無い気もしますが。今回の気象庁の働きは見事でした。家屋等の床下浸水や道路の冠水以外には人命にも船舶にも被害の報告も無く、予想波高最大2mのところを観測点で1.4mは計測されない観測点以外も考えるとドンピシャリの快挙に思われます。

表 題[20100301]

投 稿 日[20100303]

名 前[彦根市 加固啓英]

表題の欄が誤りに思われましようが、さに有らず。

これは3月一日の相棒犬ヒジキと、その心のボスの私の半日の行動記録なのです。

* 5:45～ PCの迷惑メール削除と必要な連絡の送信と発信。

* 7:00～8:02自然観察を兼ねた相棒犬ヒジキとの運動。

場所:愛知川右岸堤の自宅から落尾井道標より河床に下り上流に約3.4km歩いた、全く人に出会わない広大な河畔林と河床。自宅から約2.3km、車で約7分。(305236-6234)

<記>

* 堤上の舗装道路に20羽程のキジバトの群れ。どれも首がほっそりしている。もう少し春めけば砂嚢が餌でパンパンに膨れ上がり、一番(ひとつがい)毎の行動となるはず。

河岸や河床に高さ10cmほどの野生化したカラシナの株が多数。これは強力なセイタカ

アワダチソウの抑止力になる筈。水量：川幅の約70%程度。いつも気になっているのは人為的な水位の変化で河床の堆積土で営巣・育雛するヒバリ、コチドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、等の巣や雛や卵が水没・水死を繰り返していることです。視認した野鳥：キジバト、コチドリ、ハクセキレイ、(V)ウグイス、ツグミ、カワウ、ハシボソガラス、ホオジロ、セグロセキレイ、ダイサギ、アオサギ、ムクドリ。(V)は鳴き声のみ。常連の種名不明のワシタカ類2種やトビやコサギやカワラヒワやカワセミやキレンジャクに合えず。又、タヌキ、キツネ、ノウサギ、も見かけず。テンのサインポストを数箇所視認。左岸のJR鉄橋の少し上流にコロニーが有り、いつもは河床一杯に、ダイサギ、アオサギ、チュウサギ、コサギ、夕方にはゴイサギ、が多数見られるが、今回は数える程。河畔林内にヤマガラ、かしじゅうカラ。一頻りヒジキと駆け回り、波消しブロックに座り「方丈記」を読む。これは戦場カメラマン、キャパの「ちょっとピンボケ」の文学版に思われた。その間も頭上でホオジロのBGM、豊かな時間が流れる。

* 帰宅後

今年初の庭のフキノトウ5個を摘む。これは1970年代に道路整備の残土の中に捨てられていた物を持ち帰った無性生殖の繰り返で、雌株だったと記憶しているが、次々に食べてしまうので記憶がおぼろげ。ほろ苦いものの好きな私は毎春これを刻んで味噌と砂糖と少量のお湯とで練り合わせた物を作って賞味しています。去年は♂♀再確認の為の一芽を残して早々に食べつくし、家内が壘詰品を買ってきてくれたのですが、これまた今一。お湯で洗ってみるとフキの蕾でなく、葉を切り刻んだ物でした。代換品を探すべく同じキク科のニガナやジシバリを試しましたが、砂糖・味噌と混ぜると殆んど苦味が消えてしまい、ゴーヤの葉ですと肉薄で硬くこれまた不合格。我が家のフキは白い花卉の♀株でした。婚活中、花婿株募集！又、フキノトウに代わる、なにか良い物は有りませんか？

表 題[社会の常識・物理化学屋の常識]

投稿日[20100306]

名 前[彦根市 加国啓英]

私は20世紀末に定年退職するまでの約42年間を高分子材料、塗料、コンピュータ製造、関係の応用化学を糧にして生きてきました。年金生活に入り、テレビと新聞に費やす時間が増え、社会と物理化学屋との間の言葉の常識のギャップにしばしば出会い、戸惑うことがしばしばです。例を挙げますと以下の通りです。

1. 私は「フィジカル」と言う言葉を聞くと、先ず最初に「物理・化学的」「絶対的」の意味が浮かんで来て、その後にジワッと「肉体的」「体力的」が浮かんで来ますが、一般社会ではその逆らしいのです。
2. 「リーズナブル」と言う言葉も、私には「理論的に説明が付く」の意味に取りますが、世間では「安価な」「格安な、お買い得な」の意味で、原価も営業経費もフェアトレードの考えも無視のようです。
3. だが一般常識の方が物理化学屋より正しいかと思われる場合も有ります。
物理化学屋は強火でも、とろ火でも、標準状態下(0℃/1気圧)では、水の沸点は気液平衡の100℃であると疑いませんが、料理のレシピの、とろ火・弱火・強火、には意味が有ると思います。対流による食材の攪拌の違いや、底から湧き上がる100℃を越える加熱蒸気の食材に触れた場所での潜熱の放出で料理の味にも違いが出てもおかしくないとします。

4. テレビ番組で、おばかさんアイドル(? idol or ? idle)とも、おばかさんタレント(? タレントレス タレント)とも目されていない常識ある筈の出演者数名が、気温9℃を気温18℃の半分だと言っているのです。この人たちには0℃の半分も0℃、-30度の半分は-15度になるのでしょうか？
5. 「蒸気・水蒸気」と云う言葉も「湯気」「空中の微細な水滴」を指し、気化した水(気体)の意味ではない事が多いようです。かと云って杓子定規にSLを「湯気機関車」と呼んでは感じが出ませんね。
6. 「溶解」とすべき所を「分解」と言っているものを良く目耳にします。物質が変化する分解にはエネルギーの移動と化学変化が伴い、洗濯機やミキサーで手軽に起られては危なくて困ります。

表 題[犬を飼うなら]

投稿 日[20100313]

名 前[彦根市 加固啓英]

これから犬を飼おうとするなら、そして血統証付きのブランド品の満足感やアマチュアブリーダー的な小遣い稼ぎを求めないなら、不要な犬・猫を管理、殺処分する公的施設(滋賀県なら守山市の、動物管理保護センター)から仔犬を譲り受けることを強くお奨めします。

我が家では30数年来、現在の相棒犬も含めて三頭の犬を連続して飼っており、最初の一頭が黒い柴犬でしたがその後の2頭は、その施設出身の「祝福されざるハイブリット犬」でしたが、2頭とも非常に人が好きで、家族・犬ともに楽しく暮らしております。

現在の私の相棒犬、の真っ黒いところから「ひじき」は頂いて直ぐに下痢をし、獣医さんにかかりましたが、その獣医さんが言われることには「トリコモナス腸炎です。あの管理保護センターからの犬・猫、は相当多数扱っていますが、何時も完全な衛生管理がされており、こんな例は初めてです。まだ症状が現れていなかったのでしょうか。あそこは信頼出来ます」とのことでした。

犬を選ぶなら容姿と共に、毛の長さ(室内犬か外で飼うか、雪道、泥道、の散歩も考えて。)と成犬となったときの大きさの予測が必要です。大きさの予測は前足を握ってみて、大きければ大型になると思ってまず間違い有りません。ここ出身の2頭は、飼育係員さんやボランティアさん殺処理を避けるための努力の愛情一杯に育ち、人間大好き、人に吠え付いたり噛み付くような素振りも見せたことが有りません。

表 題[博物館と町の清掃]

投稿 日[20100402]

名 前[彦根市 加固啓英]

博物館の持つ学力や知性を、多分滋賀県内全域の自治会が行っている町の一斉清掃の日に調査や有害生物の除去の実施に生かせないでしょうか。

一時のほとぼりが覚めた今、日本各地から偶然の機会にセアカゴケグモが見つかったとの報告を散見しますし、乳児の命を脅かしかねないヒアリ等の数種の外来種のアリが既に定着しているとも聞きます。又、子供の遊ぶ児童公園内で危険な在来種のアオズムカデを見かけることも有ります。数種の問題外来種植物も益々繁茂域を広げています。

良い指導者を持たない自治会の行う一斉清掃では馬鹿馬鹿しい場面にあきれる事がまま有ります。大の大人が小さなシマヘビを鎌で殺して悪竜を退治した神話の英雄の様な気分得意満面、周りもそれに同調。県が除去対策に苦慮している問題外来植物を「花が美しいので残しておきます」の方針が多数決で認められたりしています。

ここに博物館の滋賀県全域に及ぶ指導力を導入出来ないでしょうか。一斉清掃では町中の側溝のグレーチングやコンクリートの蓋を開けて泥やゴミを取り除きますので問題生物

の調査や駆除には絶好の機会です。セアカゴケグモ等が危険だとの意見も有りますが従来から行われていた作業ですしゴム手袋の上から噛まれる怖れは先ず無いと思います。又、駆除には直接手を触れず、台所洗剤を加えた熱湯を注ぐだけで済む筈です。

表題【イワシを測ってイワシクジラを知る話】

投稿日【20100511】

名前【彦根市 加藤啓英】

有機物、生物、の見かけ比重はどれをとっても殆んどが1前後、泳ぎの苦手な所謂金槌でも僅かに水に沈む程度。プラスチックはスチロフォームの様な発泡材以外ではハロゲン化物の塩化ビニル、塩化ビニリデン、テフロン等の比重が重く1.4程度で他は1に近い。ポリエチレン、ポリプロピレンが僅かに水に浮き、その他は1~1.2程度で、セルローズの塊の木材は、水が滲みて空気が抜けるとかなり重い。ためしに爪楊枝を水に浮かべておくと短時間で沈む。

食材の生の鰯の重さと長さを物差しと料理用秤で測り、体長92mm、体重9gであった。手元の子供向けの動物図鑑にはイワシクジラの全長は17m、重量の記載なしでした。

そこで、自乗三乗の法則で、イワシとイワシクジラを相似形で見かけ比重が等しいと見なし計算し、イワシクジラの重量を推定した。

答えは(17m/92mm)の3乗×9g=62,63tonと出た。

どなたか17m程度のイワシクジラの重量を教えてください。但し長さが異なると3乗で利いて来るので大幅に狂う筈。

表題【ミノムシ多数発生】

投稿日【100417】

お名前【長浜市 水相修躬】

私の畑には、多くの木々を植えてありますが、先日石榴の木を見たらミノムシがものすごく多くついていました。インターネットで調べてみるとオオミノカにまちがいありません、他の、タラの木、木槿、桜、梅、無花果、などには一つもついていないのに石榴にだけなぜこんなに多くついたのかわかりません。天敵のヤドリバエに寄生されないよう何か手はないかと思っています。消毒などしたらミノムシがやられるし、袋でもかければどうかとも思っていますか。無事に育って繁殖し、もっと多く発生してくれればと思っています。

ボタンウキクサ調査が論文に

フィールドレポータースタッフ 前田雅子

フィールドレポーター調査は点描画のようだと、私は思います。点(一人ひとりの報告)を集めて構図(大まかな結果報告)をつくるのですが、ある程度の点が集まらなければ絵は浮き出てきません。そして共同制作なのですが、自分の興味関心で“点”の周囲を描き足すのがフィールドレポーターの特徴で、設計図通りの絵はできないけれども作る楽しみがあります(コンダクターはハラハラ、ドキドキです)。

少し前になりますが、2007年の秋にフィールドレポーター調査でボタンウキクサを取り上げました。博物館の北にある赤野井湾で2005年から連続して出現したボタンウキクサが、奇しくもこの年は大群落を形成し、社会的に注目を集めた年です。このボタンウキクサ調査ではその分布が明らかになっただけでなく、レポーターが分布地点の継続観察、自主的な水温測定、過去の分布記録(自己資料や聞き取り)を報告してくださったことで、越冬を考える資料が集まりました。また、調査結果や除去活動が功を奏して、赤野井湾のボタンウキクサを排除できたのもよかったです。

お待たせしました！

博物館の芳賀裕樹さんにより、ボタンウキクサ調査が論文になりました。陸水学会誌 2010年1月号で「2007年～2008年の滋賀県内のボタンウキクサの分布と越冬について」と題し、芳賀裕樹・琵琶湖博物館フィールドレポーターの名前で掲載されました。

フィールドレポーター調査では分布結果を中心にまとめましたが、芳賀さんは論文において越冬に関する考察もされていますので、ここに紹介します。

「本調査では文献記録のある5箇所にボタンウキクサが確認されなかった。滋賀県の気候では植物体で越冬できないと考えられる。それにもかかわらず南湖で連続出現したのは、投棄・逸失が3年続いたか、または越冬できる環境があるかのどちらかである。」とした上で、2007年分布地について2008年以後の生息状況と水温測定を示し、次のように結論づけています。「越冬が確認された守山北中学校付近の江西川(水源は工場温排水)では、冬の観測で水温が常に16以上あり、越冬の水温条件を満たしていたと考えられる。また、宮川池は2008年1月に行なわれた改修工事のため越冬を確認できなかったが、2008年3月7日の水温は14.5あり、越冬地であった可能性がある。宮川池 江西川 法竜川がボタンウキクサの越冬地であり、赤野井湾での連続出現に寄与したというのは、証拠が完全でないために仮説の域を出ない。しかし、宮川池や江西川のボタンウキクサが除去されて以降、赤野井湾に出現していないという事実は、この仮説を支持している。」

年内にはネット上で公開予定

「調査に参加されたレポーターさんに渡してください」と、芳賀さんから論文の別刷りを預かりました。調査票を送ってくださった方にはこの「掲示板」に同封しましたので、ご覧下さい。なお、全員にお配りできませんことをお許しください。年内には博物館ホームページに公開される予定です。

生活実験工房の田んぼ作業行事の今後の予定（おしらせ）

6月26日（土） 除草作業、観察会、
 7月24日（土） 竹細工、紫蘇ジュースづくり
 8月21日（土） 案山子づくり
 いずれも10時～ 工房の田んぼ前集合です。ご参加お待ちしております。

フィールド・レポーター7月～9月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。
 なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

	日 時	内 容	場 所
7月	3日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	17日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室
8月	7日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	21日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室
9月	4日(土)10:30～17:00	定例会&掲示板発行	博物館交流室
	18日(土)10:30～14:00	定例会	博物館交流室

（おことわり;上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。）

編集後記&お知らせ

2010年度(平成22年度)がスタートしました。新年度最初の行事がフィールドレポーター交流会でした。本文の方に活動報告を紹介いたしました。皆さんから送っていただいた調査票のまとめの報告会です。学芸員の方々と気楽に質疑応答ができて、勉強にもなりますし、自分が調査したことの意義などが判って、励みにもなりました。

もっと多くレポーターの皆さんが参加していただいて、ご意見・ご感想を自由に交換できると更に楽しい交流ができると感じました。交流会を地域に出かけて開催することなど、アイデアが必要です、何か知恵がございましたら、お寄せいただけるとありがたいです。

（担当スタッフ 椛島）



掲 示 板



2010 年度 第2号(9月) 通巻第60号

伝統的文化の存続と地域住民

夏といえば、やはりお祭り。

夏の今ごろ、各地で様々なお祭りが行われています。大津市でも、大津三大祭りの一つとして知られている建部大社の船幸祭があります。この様子は、琵琶湖博物館のB展示室の天井でも大きく写真で紹介していますが、実際にお祭りに参加してみますと、実に感動的なものでした。

この祭りは、毎年8月17日に行われ、重さ1.5トンの大御輿を御座船に載せ、瀬田の唐橋から南郷洗堰近くの御旅所まで瀬田川を下るといふ行事です。その神輿が戻ってくる頃、瀬田川にかかる唐橋の周辺で花火の打ち上げがはじまりました。祭りの日に瀬田川の水辺には、かき氷やイカ焼きや風船などの屋台が立ち並び、子供連れの家族や浴衣姿の若者など大勢の人が参加し、唐橋周辺がさらに賑やかさを増し、独特の景観を創りあげました。

こうして、8月17日の瀬田川の唐橋周辺では、普段と違って船幸祭や夜空を彩る花火大会も行われ、お祭りの風情に満ちあふれた町となりました。

夏祭は、一般的に農事と密接に関連する春秋祭りと違って、災害の除去や地域の信仰などに重点が置かれるといわれていますし、お祭りは、地域における人々の生活と深く結びついて創りあげた伝統的文化でもあるように思います。

町並や自然環境が変化しつつあるなか、住民と地域の風土や文化とをつなぎとめるものとしても、祭りはその役割も果たしてくれています。

琵琶湖博物館 フィールドレポーター担当 楊 平

***** もくじ *****

1	巻頭言(伝統文化の存続と地域住民)	楊 平	1p
2	「イチョウウキゴケを探そう」調査の中間報告	前田雅子	2p
3	「アカトンボのふるさと探し」実施報告	森 擴之	4p
4	「アカトンボのふるさと探し」参加者のひと言	参加者	6p
5	またみられるかな?このマーク	津田國史	7p
6	三上だより	橋本利衛	8p
7	「不要なケミドラムで天水桶を」	加固啓英	9p
8	「どうしてもよい疑問」「圧縮パッドの製法は」	加固啓英	10p
9	「なんとも厄介、生物学と和名(その5)」	加固啓英	11p
10	編集後記		12p

「イチョウウキゴケを探そう」調査の中間報告

前田雅子

猛暑が続きますが、お元気でお過ごしでしょうか。

5 月末に始まったイチョウウキゴケ調査も終盤に近づきました。皆さん、イチョウウキゴケは見つかりましたか？ 8 月 15 日までに寄せられた 113 地点(157 件)のデータを簡単にまとめて紹介します。

イチョウウキゴケは普通に見られる？

調査された 113 地点のうち、イチョウウキゴケが見られたのは 81 地点、見られなかったのは 32 地点です。あちこちに生息すると聞いていましたが、予想以上に多く、そして滋賀県内に広く分布するようです。環境別では水田で多く見られています(表1)。

けれども、「家の近くの田んぼをずーっと見たけど、全然見つからない」と、草津市や大津市の複数のレポーターから聞きました。湖南地域の報告が少ないのは、生息が少ないからでしょうか。「調査をしても見つからなかったので調査票を出さなかった」という方がおられましたら、『ない報告』を送って下さいますようお願いいたします。調査地が水田の場合は、道路側から 5 枚以上を覗いても見つからない時に、『ない』としてください。



表1 環境別の生息の有無
イチョウウキゴケ

調査地	生息有	生息なし
琵琶湖	2	0
内湖	2	2
池沼	0	4
堀	0	0
水田	76	24
水路	0	2
河川	1	0
合計	81	32

これから アカウキクサが探しやすい

調査票の設問5「その他の水草は見られますか？」ではシャジクモ、フラスコモ、アカウキクサの項に時折未記入がありました。見分けが難しいものはパスしてもかまいませんが、それらしい実物に出合えば、資料の写真やイラストで判断がつくと思います。

田んぼのシャジクモは出現の時期が過ぎましたが、アカウキクサはこれから探しやすくなります。そろそろ葉が緑から赤に変化する頃ですので、湖岸や池、河口付近で水面を赤く染める水草があったら、双眼鏡で観察してみてください。

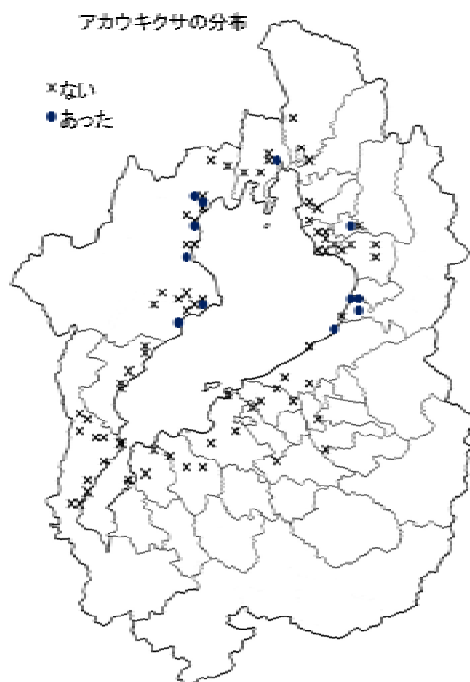
これまでにアカウキクサは、県北部の水田地域の14地点で報告されています。南湖にも北湖にもあるそうです。少し涼しくなってからお出かけください。



アカウキクサ 13X10mm

表2 環境別の生息の有無
アカウキクサ

調査地	生息有	生息なし
琵琶湖	0	2
内湖	1	3
池沼	0	3
堀	0	0
水田	10	72
水路	2	0
河川	1	0
合計	14	80



昨年までなかったイチヨウウキゴケが田面に広がっている。これだけ今迄と違う草が水面を覆うと、水質について「？」と感じる。(橋本さん)



6月に兵庫県立「人と自然の博物館」の秋山弘之氏を訪ね、イチヨウウキゴケについて教えていただきました。出現の年次変化については、「イチヨウウキゴケの出現は偶然の要因に左右される。他の藻類や浮草などと競合して繁殖が規制されたり、捕食者や農薬にも影響されたりする。同じ場所でも年によって出たり出なかったり、2～3年大繁殖したら次の年には出なかったりするのはそのためだ。」とおっしゃいます。

水質に関しては、窒素分が多いとウキクサ類が増えるそうです。植物体が用水で運ばれてくることもありますし、土壤水分を含め、水は大きな要素です。



アカトンボ(アキアカネ)のふるさと探し



去る8月7日(土)、恒例のアキアカネマーキング調査を、びわこバレー蓬萊山山頂で実施いたしました。

気温35℃を越す猛暑の中、山頂では捕虫網を振り回していても、汗もかかず、きわめて快適に作業を進めることができました。

今回の参加者は総勢14名、1000頭のマーキングを目標としましたが、最終的には♂205、♀580頭の合計785頭の左後翅にマーキングし、リリース致しました。

秋風が吹くであろう9月末～10月初めには、これらのアキアカネは産卵のため山を降り、里山などの水辺に集ってきます。

マーキングされたアキアカネが琵琶湖を飛び越して、琵琶湖東岸の草津、守山、彦根などで見つかるでしょうか？ 楽しみです。

皆さんの身近な水辺で、左後翅に黒丸のマークの付いたアキアカネを見かけたら、その日時、場所、頭数などを琵琶湖博物館フィールドレポーター係りまで、ご連絡下さい。

連絡場所は： 滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター係り
〒525-0001 草津市下物町 1091
または： E-Mail freporter@lbn.go.jp

なお、今回の調査には、琵琶湖博物館から八尋さん、蜻蛉(トンボ)研究会から澤田さんのご参加を頂き、アキアカネ以外のトンボについても、専門的な知識を教えてくださいました。ありがとうございました。



記録写真(2010-08-07)



いざ、出発



早くもゲット



あそこに、居るぞ



元気に帰って来いよ



しばし休憩、コーヒータイム



参加者一同

“ご参加の皆さんから一言”

アキアカネのマーキング(比良山系 打見山 8月7日)に参加して
苦手だった虫がさわられるようになったのでよかったです。楽しかったです。

♡ 小学4年生 いうりか

- アキアカネ 山でのマーク 何時会える。
- アキアカネ 暑さで茹だり より赤く

♡ ~比良の石楠花~

頂上に着くと初秋を思わせる風が麓の熱波を忘れさせてくれました。マーキングの説明を聞いている間にも回りにトンボが舞ってきました。トンボとりを始めて、すぐにアキアカネ♀をマーキングした。何年かぶりにかトンボを持った感触から、不思議な懐かしい気分になりました。「マークしたトンボの翅は大丈夫ですか？」と聞いたら、問題なく飛べるということで、ほっとした。9月以降に麓でマークしたトンボに会えると感激するでしょうね。

♡ 椋島昭紘

山の上は涼しくて最高でした。この夏をガマン大会のごとく過ごす下界の人間から見れば、アキアカネの避暑は羨ましい限りです。1000mの山を上昇気流に乗って登るのでしょうか。また、アキアカネの大群を賄いきれるエサ(虫)があるというものスゴイと思います。」

♡ 前田雅子

今年は50頭を超える 万歳!

山麓駐車場に着いて一休み中に布谷先生と会った。何故、“先生がここに”まずはビックリ。カメラ・ビデオ撮影が同行のNHK放送大学博物館学講座向けの教材用取材との事。フィールドレポート活動講義に取り込むらしい。レポート活動も捨てたものでは無いか?こんなことが在るのならもう少し活動を充実させなければと感じる。本題のマーキングは今度で3回目である。前2回は10頭にも満たなかったが今回は採取テクニックが上達したのと、アキアカネが多量に飛んでいたのも、50頭超えて大満足であった。

♡ 高田正一

トンボを追いかけると童心に戻れます。蓬萊の爽やかな木陰で、NHKの取材を受けました。「博物館と一般人のかかわり」といった問いで、カメラを向けられると緊張してしまい、常日頃思っていることの半分も言えませんでした。こういった活動を数年続けていると、過去のデータと比較するためには、今の状態をしっかりと記録しておく事の大切さを十分に伝えられず、残念な思いでした。

♡ 草津家猫

ビワコバレイ山頂へ、以前から興味があったアキアカネのマーキングに初参加できました。春に平地で生まれ、飛び立ち涼しい山頂で夏を過ごし、秋に再び生れた下界へと・・・マーキングされたトンボ、どこへ帰って来るのでしょうか? ぜひ一匹でもまた出会いたいです。

♡ 雑草園

今年も比良・蓬萊山でアカトンボのマーキングを行った。

去年、ロープウェイで登るとき、ナラ枯れの赤茶けたのが気になったが、今年はそれらの樹々の葉が落ちて、もう幹と枝になってしまったためか、去年ほどは茶色が目立たない。

アサギマダラの吸蜜植物、ヨツバヒヨドリの群落を、鹿の食害から護るため、ネットで囲う対策がされていたが、ヨツバヒヨドリの生育は芳しくない様子だった。そのアサギマダラも、2～3頭見かけただけで、去年より少なかった。



目指すアキアカネは、ロープウェイ山頂駅の南面スロープに植えられた、百合の幼生の上を飛び交っていた。それを追う私達を、NHK 放送大学のカメラが追って、取材撮影が始まり、森さん、山崎さんが質問に答えていた。

標識(マーキング)を付ける際、個体の♂♀を確認しなければならぬが、蜻蛉(トンボ)研究会の澤田さんの説明で、判ったつもりでいたのに、さて捕らえてみると、区別がつかない。♂は腹部に少し突起があると説明されたが、その膨らみが判らない。雌雄を並べてみれば判るだろうが、1個体で、これが♂・♀どちらかとなると、私には判別が付かない。試しに、♀と判断して、澤田さんに質問してみたら、やはり♀だった。

ところが、採集する個体の全てが、先の♀の徴候しかないので、再度、澤田さんに聞いてみたら、“今日は♀が多いようです”と言われ少しほっとしていた。

ネットに入った個体を、マーキングのために手に取るのもなかなか厄介だ。

絡まる網から個体を掴む際、できるだけトンボの躯体、展翅に負担をかけないようにと、躯体をそっと掴むのだが、逃げられそうになるとつい強く掴んでしまう。

網から出して、個体にマーキングするのもまた神経を使う。

左後翅に●を描くのが課題だが、フェルトペンの太い方で○を描き、中を塗りつぶそうとすると、ペン先で翅を破りそうで怖い。そこでまず、そっと点を打ち、その点を周りに増やしていく方法をとった。これだと翅を破る懸念もなく安心だ。

ところが、翅を綺麗に伸ばした状態を保持するには、翅の下にしっかりした平面が要る。

そこで私は、今日のマーキングカードのボードを裏返し、その上に個体の左後翅を載せた。立ったままでマーキングできる仲間もいたが、ネットから取り出す折にはネットを地面に伏せていたから、私はそのつど腰を落として描いていた。

時おり、躯体を掴んだ左指先に、彼らの噛み付きを受けながら、意外に多く40数頭のマーキングができて満足した一日であった。

三上便り

FR 野洲市 橋本利衛

厳しい暑さのなかにも、少しづつ秋の気配が……

- 裏の山(三上山)では蝉の声多く、しかし、夕暮れになると{蝸}の声も。



- 稲の生育は順調、しかし夜も暑いので味の方はどうか。



- 雑草 その成長ぶりは大変なもの。百姓は草に追われているようなもの(昔から百姓は草を追えといわれているのですが)どうしてどうして、草の方がはるかに早い、正に草に追われる日々です。

- 8月12日の日に、中主から来たと言って、前の小川、小学校前の中で、小魚を取っていました。いつもいる場所を教えてやりました。



普通、三上からみれば中主の方が魚は多いのではないかと、思って教えてやりましたが……。

- 8月19日 近江富士団地内に猿が来て、と話していました。

猿が三上山にいて、県道をこえて出てい行ったのでしょう。

- 近所の小学4年生の子が、かぶと虫を見せに来てくれました。わが家には小さい子はいないのですが、時々話しかけてくれますので、かぶと虫や、いろいろな虫の話をしてやっています。

(投稿日 H22. 8. 19)

表 題[不要なケミドラムで天水桶を]

投 稿 日[20100714]

名 前[彦根市 加固啓英]

私は1970年代末に職場の産廃物のケミドラム(ABS樹脂製のプラスチック製のドラム缶)を正規な手続きで廃棄物のマニフェストを書き換えてもらい自宅の天水桶に転用して雨水を利水しております。

建坪18坪の屋根面積の約1/4(20㎡弱)の雨樋からの水で畳5畳分程の庭池、60cmの水槽、睡蓮鉢3個、セメントを捏ねる舟の箱水田2面、植木や庭水、洗い物、等の全てをまかない、晴天続きでも不足を感じたことが有りません。

駅のベンチ等にも見かけるABS樹脂の耐候性は抜群で約40年雨ざらしでも脆化も無く、強度にも不安は有りません。

お手伝いしますので皆さんも試して見ませんか？

皆さんの職場などで輸入品や遠方から購入した、運送費の関係でリターナブル使用出来ないで廃棄処分を待つケミドラムがあればDIYで簡単に天水桶が作れます。

雑給水に飲料水レベルの水質の上水を浪費するのが如何にも勿体無く思われるのです。

小中学校などのトイレのフラッシュウォーターに使えばかなりの省資源になると思います。

県立琵琶湖博物館では雨水は利水されていますか？排水されているのでしたらご一度検討をお願い致します。

* 天水桶の作り方は 右図

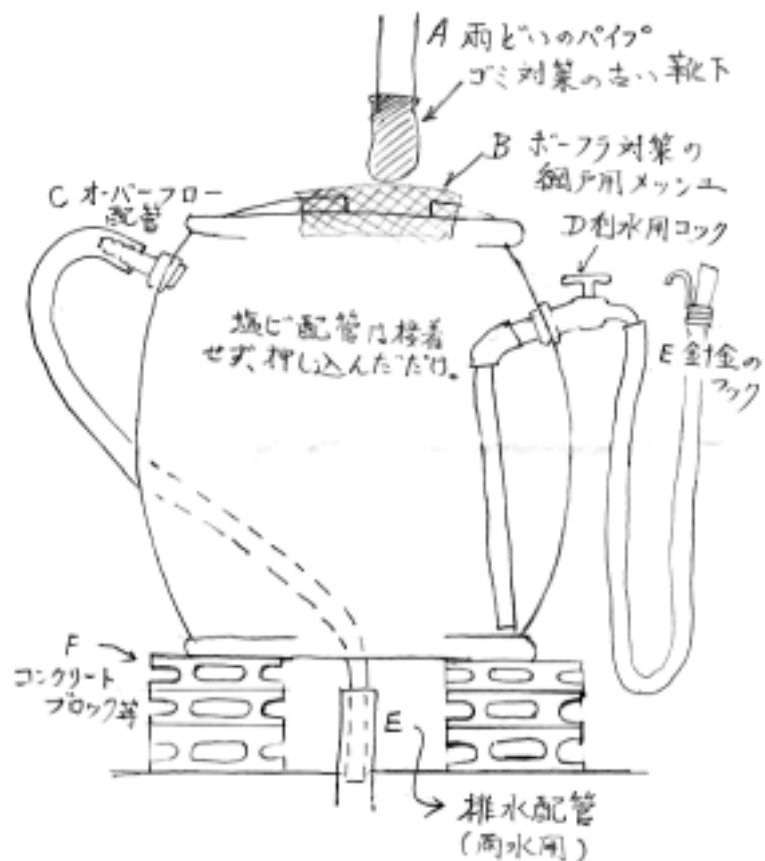


表 題[どうしても良い疑問]

投 稿 日[20100623]

名 前[彦根市 加固啓英]

他の人にとってはどうでも良い事でなぜか気になる事は有りませんか。

私のそんな疑問を聞いて下さい。

その1.

ほぼ毎日約一時間、愛知川の河畔林や河床での犬の散歩と運動で過ごすのですが、一汗かいて一息付いた草むらで一丁前にカナブンや♀のカブトムシをそっくり相似形に縮尺したような2mmにも満たない甲虫を良く見掛けます。種は異なっても動物の体細胞のサイズはそれほど大きくは変わらない筈ですし、小さな甲虫にも臓器や組織は同じように揃っている筈です。そのような小さな甲虫の臓器や組織は極端に少ない細胞数で構成・機能しているのでしょうか。そうでないとするとドールハウスを本物のレンガや瓦で作る様な矛盾が生じる筈です。

その2.

我が家の周囲にはヘクソカズラやカラスウリ等の野生蔓性植物が多く、園芸・農作物の朝顔やゴーヤも良く育てます。曾根沼公園の近くの街路樹にはクズが巻きつき、秋までには樹冠まですっかりクズの葉に覆われてしまいます。これらの内には根が蔓の途中から生える物も有りますが高所の空中では余り水分や肥料を吸収している様には思えませんし蔓の太さは根元も先も余り変わりなく見えます。根から吸い上げられた水分は蔓を上がり、枝葉に至る度に蒸散と同化で消費されて量が減ってゆき流量が激減する筈です。つまり穴だらけのホースで水を上に送っても途中で漏れて上には届かないのではないかと、又、先まで太いホースを続けるのは過剰投資で不利に思えるのですが、蔓性植物は蔓の先まで青々と茂っているのも事実です。

表 題[圧縮バットの製法は？]

投 稿 日[20100701]

名 前[彦根市 加固啓英]

今となっては、私には調べようが無いのですが、往年の圧縮バットの製法をご存知の方が居られましたら ご一報をお願い致します。多分、オートクレーブの様な加圧・加熱出来る装置の中でプラスチックの原料のモノマーを含浸・加熱重合したのだろうと推測は付くのですが、この技術の有る企業等の詳細が分かりません。古い家を解体やリフォームすると殆んど例外無く土台付近がシロアリに食い荒らされて、耐震性劣化は怖ろしいばかりです。床下材だけでも樹脂強化と殺虫剤の含浸で撥水性とシロアリ対策の有る加工木材が作れないかと思うのです。

表題[なんとも厄介！生物学と和名(その5)]

投稿日[20100718]

名前[彦根市 加固啓英]

本題から一寸外れますが、皆様は母の日に赤いカーネーション、白いカーネーションを実母や養母に贈る慣習をどうお思いですか？ 私は肉親との縁の薄い、薄幸の子供たちの心に悲しみをよみがえらせる、子供の心に塩を摺りこむ様な、それに商業主義が便乗したこの慣習には同調できません。

本題に戻ります。U字溝や三面コンクリートでない農業用水路では水面を埋め尽くして何処でも見られるのはツユクサ *Commelina communis* とミゾソバ *Persicaria thunbergii* ですが、どちらも中々美しい花を咲かせるのに、あまりにも何処にでも有るので注目されることは少ない様です。

河畔林などの湿った薄暗がりニミゾソバをとショボクレさせた様な貧相なそっくりさんが生えているのを見かけますが、素手で触れると痛い目に会います。

茎じゅう下向きに棘が密生しており容赦ない反撃を受けます。これはミゾソバと近縁種のママコノシリヌグイ *Persicaria senticosa* です。

この様な継子いじめをそのまま表現した様な和名が今後も使われて欲しくないと思います。

少なくとも五界説で「動物」「植物」に分類される生物種の和名をタイプサンプルと照合して良識を持って総括管理する団体が欲しいと思います。

* ラテン語の文法や語尾変化は分かりませんが、研究社の羅和辞典
1952・09初版、2000・11、第34刷等や百科辞典等より推測すると、
多分…

Commerinia : ツユクサ科

communis : 共有の、共同の、共通の、

Persicaria : 乾燥した、

Thunbergii : スエーデンの植物学者で医師のリンネの弟子のツンベルク

(1743~1828)。1775に来日し約1年間滞在。日本の植物の学名にこれの
付くものは数種有ります。

senticosa : イバラの、とげの多い、

…だと思えます。

生活実験工房からのお知らせ

9月26日(日) 稲刈り 10時から 生活実験工房前
10月24日(日) 足踏み脱穀、唐箕掛け 10時から 生活実験工房前

フィールド・レポーター 9月～12月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予約、ご参加お願いいたします。
なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時		内 容	場 所
9月	18日(土)10:30～13:00	定例会	博物館交流室
10月	2日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	16日(土)10:30～13:00	定例会	博物館交流室
11月	6日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	20日(土)10:30～13:00	定例会	博物館交流室

(おことわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編集後記 & お知らせ

8月が終わって、稲刈りが始まっているところも見かけるようになりましたが、TV ニュースはまだ、猛暑日の観測記録更新とか、熱中症で救急車のお世話になった人の話題が続いていますが、皆さんの周りはいかがでしょう？

せめて朝晩は涼くなってほしいです。これから9月、10月にかけて周りで左後翅に黒いマークの付いたアキアカネを見つけれたら、下記住所にご連絡をお願いします。

(担当 スタッフ 椛島)



フィールドレポーター

掲 示 板

2010年度 第3号(12月) 通巻第61号



フィールド調査でつなぐ地域交流

12月に入ってきました。この時期は、フィールドレポーターによる調査結果をまとめたり整理したりする時期でもあります。

琵琶湖博物館フィールドレポーターによる調査は、生物や生活文化などに関する様々な情報を博物館の資料として保存し、展示や交流の中で生かしています。これまで琵琶湖博物館フィールドレポーターにより、様々な調査を実施してきました。これらの結果は、フィールドレポータースタッフにより『フィールドレポーターだより』にまとめられ、勉強会や観察会を適宜実施するとともに、フィールドレポーター交流会や博物館の展示室などでも発表しています。特に、今年、名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」関連の「いきものみっけシンポジウム」において、フィールドレポータースタッフによる調査結果の発表ができました。他の団体からは、「生物多様性と環境保全」に関する取り組みや調査報告、住民活動などについて多くの発表が行われました。今回のシンポジウムを通じて、多様な生き物やその生息環境の保全に向けた、フィールド調査でつなぐ有意義な交流ができました。

琵琶湖博物館フィールドレポーター担当 楊 平

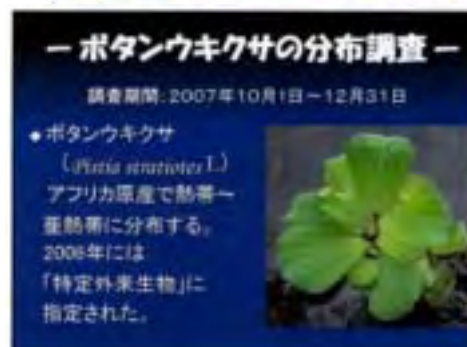
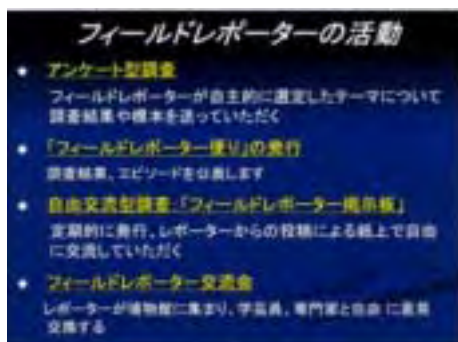
***** もくじ *****

1	巻頭言	楊 平	1 p
2	「いきものみっけ」COP10 シンポジウムで事例発表	椋島昭紘	2 p
3	市民参加の生き物調査団体、大集合	前田雅子	3 p
4	COP10「いきものみっけシンポジウム」を傍聴して	津田國史	4 p
5	COP10「いきものみっけシンポジウム」に参加して	高田正一	5 p
6	どこへ行ってしまったのか アキアカネ	森 擴之	6 p
7	雑草と焼畑農業	橋本利衛	7 p
8	蛭 調査	橋本利衛	7 p
9	カマキリは積雪を予知しない	前田雅子	8 p
10	馬のいる風景	加固啓英	10 p
11	校庭樹の手入れ(その1)	加固啓英	11 p
12	私の湖岸散歩 - 旧草津川と葉山川の変貌	久保和友	12 p
13	編集後記		13 p

「いきものみつけ」COP10 シンポジウムにフィールドレポーターの事例発表
椋島昭紘

環境省生物多様性センターが「いきものみつけ」を平成20年7月より3か年事業として市民参加型生物調査を実施しているのをご存じの方もおられると思います。この事業は今年度が最終年で、今後の自然環境調査における情報集約の仕組みとして、今回の実績を利用することを検討するにあたり、COP10名古屋開催に合わせて、市民参加等による情報集約型調査を実施している地方公共団体や学校、博物館に呼びかけ、情報利用の可能性を探るという主旨でシンポジウムが企画されました。そして、琵琶湖博物館「フィールドレポーター」にも事例発表の要請がありました。そこで、フィールドレポータースタッフおよび担当学芸員の楊平様、前畑様と相談の結果参加することになりました。

シンポジウムはCOP10名古屋の開催中の10月23日(土)名古屋市科学館で開催されました。フィールドレポータースタッフおよび担当の学芸員の楊平様、前畑様が参加し、私が皆さんにかわり事例発表をしました。発表内容は、琵琶湖博物館のフィールドレポーター制度の活動、調査事例は「ボタンウキクサの分布」です。発表結果は調査の方法および成果とも好評だったと感じています。他の発表は環境省生物多様性センターから「いきものみつけ」調査の成果、千葉県自然保護課生物多様性センター、世田谷トラフトまちづくり、相模原市環境政策課、掛川市環境政策課、名古屋市環境局生物多様性企画室、石川県県民交流課、日本学校農業クラブ連盟がそれぞれ市民・学生参加の生物調査結果について行われました。独自のアイデアで調査を実施されておられます。市民・学生参加による自然環境変化の理解には役立っています。ただ、調査した結果をどのようにして成果にしていくかが課題のように感じました。調査方法には参考になることがあり有意義でした。



市民参加の生き物調査団体、大集合 いきものみっけシンポジウム

前田 雅子

ようやく秋らしくなった 10 月 23 日、生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)の関連事業として「いきものみっけシンポジウム」が名古屋市科学館で開催され、フィールドレポーターは活動発表する機会を得ました。

「いきものみっけ」は環境省が実施する市民参加の生きもの調査で、自然に親しみながら身近な場所を観察し、みんなで生きもの地図を作る活動です。シンポジウムでは、「いきものみっけ」と同様な調査活動を行なっている自治体、学校、博物館などの 9 団体はその取り組みを発表し、活動の発展と情報の役立て方について考えました。

ボタンウキクサ調査を発表

フィールドレポーターの取り組みを椋島昭紘さんが発表されました。初めにフィールドレポーター制度の説明、続いて 2007 年度実施のボタンウキクサ調査を事例に、調査結果を示しつつ活動報告されました。最後に、たくさんの方の参加でボタンウキクサの生息地が明らかになり、「見られない」データが集まったことで越冬を考察できたと、成果を述べて結ばれました。15 分の短い時間でしたが堂々のプレゼンテーションでした。



シンポジウムで印象に残った話題

自然に興味のある人はよりいっそう、あまり関心のない人も自分なりに

自然とのふれあいは見ることから始まります。特別な知識がなくてもそこで小さな発見をするから楽しい、また、詳しく調べることで興味が深まるのは、全国共通のようです。

庭から始める生物多様性の保全活動

「小さなベランダから大きな庭まで、家の庭は様々な形で生物多様性に関わっている。庭の観察は生物多様性保全の第一歩」と、小河原孝生氏。都市生活者も目からうろこ！

一般の人の目と専門家の目をどう組み合わせるかがポイント

“調査はいかに目がたくさんあるか、また近いところに目があるか(一般人の力)が重要であると同時に、活かしたデータにするための方法論(専門家の力)が必要”という話題が出ました。両者の連携があるフィールドレポーターは力強い！

調査方法の統一と、データ活用

市民調査の共通の悩みとして、個人の熱い思いから生じる「調査方法のバラつき」があります。思わぬ成果を生むこともあります。多くは集計結果の全体像を見えにくくします。「活用できるデータにするには調査方法の統一が不可欠で、計画にあたってはわかりやすく誤解を生じない調査票を作ること、調査者は調査方法をよく理解して実施するのが大事。その上で熱い思いや視点をプラスしてもらうのが良い。」と。個も全体も生きてこそ！

COP10「いきものみっけシンポジウム」を傍聴して

101025 津田 國史

名古屋市科学館サイエンスホールでの COP10 の分科会「いきものみっけシンポジウム」を傍聴してきました。私達フィールドレポーターの事例発表もあり、9件の発表はいずれも示唆に富んだものでした。

私が特に印象に残ったのは、「鳥類の生息環境を保全する場合、多様度と現存量はその空間規模に負うところが大きい。」との報告で、鳥類の生息環境の必要面積としての緑地を30ha.以上で顕著な効果が現われると、指摘された報告でした。

この報告を裏付けるかのような現象を、私は身近に体験しています。それは、野洲川河川林に生息していた鳥類が、集落の林や藪に追いやられ、その種類が著しく減少したことです。旧野洲川河川林は、鳥類の生息地として極めて良好な環境であったのに、河川改修で林が消滅したので、近隣集落に残された小さな林藪に移らざるを得なくなって、その種類も限られたものになっていることを思い出していました。

また、「都市域では生息地の改善のために、マトリクス(庭)の緑が重要です。」との説明に頷き、今年の初夏、わが家の台所に来たウグイスの幼鳥も、何かを訴えたかったのかなと合点していました。そして、「庭は、持続可能な“定点調査地”として有効です。」とのコメントに、わが家の雑草園に大義名分を得た思いで居ました。

小学生が集めたツバメの調査、名古屋のため池の調査なども、わたしたちフィールドレポーターが以前に調査した対象であり、もっと詳しく知りたい思いでした。

相模原市の市域の(人の字形)左半分の大方は里山であり、残りは街区になっている様子がよく判る俯瞰写真を使っての説明で、自然環境が維持されているだろう里山地域が、調査人員の関係からか、調査対象にできない報告を聞き、他人事でなく、要因は少し違うが、私たちフィールドレポーターの偏在と似通ったものがあるな、あの里山区域が調査対象になれば、もっと面白い結果になるのではと、期待が広がっていました。

最後の質問で、十分に意を尽くせませんでした。私は「調査期間のガイドライン」を提案しました。各グループが調査報告する、データの基本となる調査期間に、ばらつきがあるのは好ましくないので、調査対象に一定の期間(日時)を設定してはと質問しました。

生物の発生・生育は、人間の暦年とは関わりなく進行しています。それを無視して〇月1日から〇月30日までと決めるより、この生物は最低何日の調査をしましょう、これらの植物には何日間の調査をと、期間のガイドラインをつくってはいかががでしょう。調査データの共通基盤があつてこそ、他地域との比較も価値があるのではと提案しました。グループごとに、独自の手法と、期間で行っているいまの状態では、全国的な比較データとしては、厳密な信頼性に欠ける感があります。

なにがなんでも画一的にしようというのではなく、最低押さえるべきところだけは確立し、あとは地域の自主性に委ねることで、調査データの比較が容易になり、データの共有も得られ、面白い結果が期待できるのではと言いたかったのです。

司会者からのコメントは、夫々の地域、グループの事情もあるので、一概には決められないのではとのことでしたが、地域偏差を見るためにも、調査期間の設定を検討してはと思っています。

「いきものみっけ」シンポジウムに参加して

守山市 高田正一

東海道本線で名古屋に到着。(帰りも同じ。)地下線東山線に移動。ホームに降りると大混雑。事故か?時間までに科学館に到着できるか?“心配“。取り合えず、来た電車にのる。超満員。“伏見”で降りられるか?やっとの思いでホームに降りる。降りたのは私達だけである。ふと“気付”いた、今日はクライマックスシリーズの第2ステージの、中日 巨人の第1戦である。乗客は殆ど全て名古屋ドームに向かうのである。

案内板に従って5番出口を出、御園座を向かいに見ながら、7分程歩いて科学館に到着した。

途中で宝くじ売り場を見つけた。旅先での購入は“当たる”と信じて少し買った。残念ながら、1000円しか当たらなかった。(投資額はないしょ!)講演内容等は他の人にゆずる。



どこへ行ってしまったのか アキアカネ

‘10 - 11 - 22
守山市 森 擴之

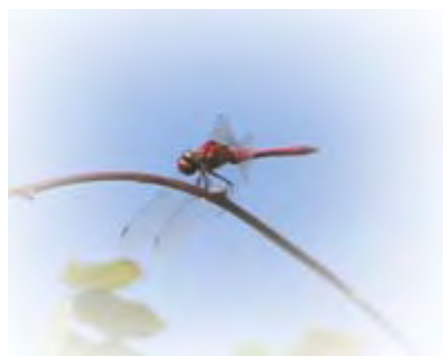
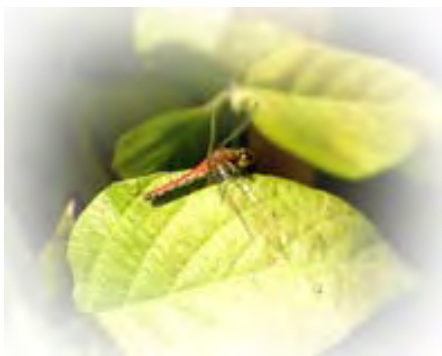
私たちフィールドレポーターは、今年8月7日びわこバレー蓬萊山山頂で、蜻蛉「アキアカネ」約800頭にマーキングをおこない、秋になって、どのくらいのアキアカネが琵琶湖岸の水田などの水辺に降りてくるのか、楽しみにしてきました。

ところが今年の秋は、山の下では、ほとんどアカトンボの飛ぶ姿を見ることが出来ませんでした。

どこへ行ってしまったのでしょうか？

今年は夏から秋にかけて、気温が例年になく高く、山頂で避暑中のトンボたちも下山の機会を見失ってしまったのでしょうか、それとも卵を産む水辺が少なくなってしまったからでしょうか？

夕焼小焼の赤とんぼ、竿の先にとまっている姿が見られなくなってしまったのは、寂しい限りです。



どちらも昨年(2009年)秋の写真です。

雑草と焼畑農業

野洲市三上 橋本利衛

今年の稲刈りは、9月18日に営農組合の若い役員の機械作業で、スムーズに晴天のもと進行したが、昨年までと違っての特徴は

草が非常に多いこと

ザリガニ(半分以上は死骸)は例年に比べて多いこと

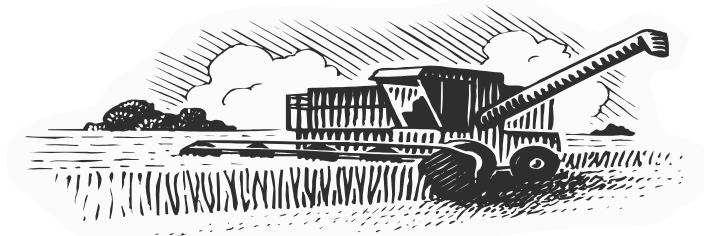
であった。天候の影響がザリガニにどう関係したのか。

草はわが田では ミズアオイ コナギ で そのほか セリ等であった。天候、水稻の生育状況など、原因はいろいろ考えられるが、最近はわら屑などを田で燃やすことがなくなったことも原因と考えられる。

環境問題から稲刈り後の田でのわら屑の焼却をしなくなったことも原因ではないかと考えられる。最近「焼畑農業」が復活しつつあると云われるが、水田での稲刈り後のわら屑の焼却も、焼畑農業の一つと考えれば、農薬散布も減り、雑草も減るのではないかと。思う。環境問題をどう考えるのか？という問題提起を今年のをが田の雑草の多さが問いかけているように思う。

藻類は水をすっかり切ったため、地面にへばりつくようになって枯れている。来年はこの「藻類」もまた芽を出すのかどうか。

今年の夏の猛暑は、いろいろなことを考えさせてくれた。因みに収量は？となると、わが田では昨年より少し多かったという結果であった。果たして「品質」となるとどうなるか？というところである。



蛍 調査

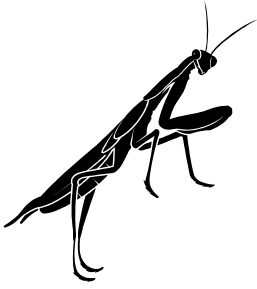
野洲市三上 橋本利衛

調査月日	場 所		
5月30日	三上小学校校門付近	7匹	ヘイケボタル
6月 3日	三上小学校校門付近 わが家の裏の川	30匹余り 数匹	
6月 4日	三上小学校付近	30匹余り	乱舞の感あり 湖南市、野洲市の人たち 10人程、観察に来ている
6月 5日	三上小学校付近	多数	

(掲示板9月発行に編集できずお詫び申し上げます。来年のご参考にと思い掲載しました。編集担当)

カマキリは積雪を予知しない

前田 雅子



ずいぶん前になりますが、1999年度の冬にフィールドレポーター調査で「カマキリの卵のう」を取り上げました。「卵のう」は、卵を包んだ泡の固まりです。木や草などに産みつけられた卵のうを見つけることでカマキリの分布を知り、種の棲み分や環境の自然度をさぐるという調査でした。

当時、一つの論文が話題になっていました。オオカマキリの卵のうが高い所にあるとその年は大雪になる、つまりオオカマキリは積雪深を予知して産卵するという論文(酒井與喜夫 1997)でした。滋賀県ではどのような状況にあるか、私達の調査でも「卵のうが付いていた高さ」の項目を設けて注目しました。結果はハラビロカマキリが積雪の深い地域で高い所に産卵する傾向がありましたが、オオカマキリ、チョウセンカマキリ、コカマキリの3種はその傾向がみられず、むしろ積雪の深い地域で低い所に産卵していました(「フィールドレポーター便り」)。

あれから10年余。積雪予知能力説を覆す論文が先ごろ発表されたと聞き、博物館の八尋克郎さんにお尋ねして、「日本昆虫学会第67回大会(2007年)講演要旨」を見せていただきました。安藤喜一 弘前大学名誉教授の講演要旨を原文で下に示します。

オオカマキリの「雪予想」は間違いである

安藤喜一(弘前市)

オオカマキリが高い所に産卵すると大雪、低い所に産卵すると小雪という最深積雪予知能力は統計学的に実証されたと報告されている(酒井、1997, 2003)。この考えはマスコミに大きく取り上げられ、広く支持されている。その「雪予想」の理由は、卵包が雪にうもれると死亡すること、特に雪解け時に積雪下の卵は窒息死するのを回避するために最深積雪の少し上に卵を産むと説明されている。しかし、弘前市での調査で、オオカマキリの卵包はむしろ雪の下敷きになるのが普通であり、4ヵ月に及ぶ積雪下の卵が死亡することはほとんどなく、また冬季に卵包を1-7の水に1ヵ月連続して浸漬しても死亡しなかった。従ってオオカマキリが雪を避ける必然性はなく、「雪予想」は間違いであることが分かった。間違いの原因は、実験せずに卵包が雪にうもれると死亡すると信じたこと。卵包の高さを測定するのに人工林であるスギを対象としたこと。各年に産卵された実際の高さと、最深積雪との間の相関が有意でないのにオオカマキリは積雪量を予知するはずだと仮定して、実際の卵包の高さを補正するという名の大幅な改善を行なった結果、相関は有意になった人為的なものである。

安藤氏は実験を行ない、卵のうを積雪や融雪水の条件下においても卵に影響がなかったことから、オオカマキリが積雪深を予想して産卵する必然性はないと述べています。滋賀県では卵のうが雪に埋もれることは少ないでしょうが、この冬にオオカマキリの卵のうを見つけたら、継続観察してみてもいいのではないでしょうか。

カマキリの卵のうの形



オオカマキリ

ほぼ球形で
柔らかい



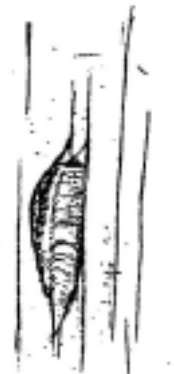
ハラビロカマキリ

四角い円筒形で、
下がへこむ。
こげ茶色で堅い。



チョウセンカマキリ

細長く堅い。
つやがある。
白から灰色がかかる。



ココカマキリ

細長く堅い。チョウセン
カマキリのよりも小さい。
黄茶から赤茶色。

(杉野由佳 絵)

表 題 [馬のいる風景]

投 稿 日 [2010.09.16]

名 前 [彦根市 加 固 啓 英]

知人が大きなペットを飼いました。何と、競馬馬上がりのサラブレッドなのです。

相棒犬との散歩の愛知川河川敷で刈り取ってきたクズの蔓・葉を土産に昨日の早朝6:00前に馬に面会に行きました。道を行く人に彼の家は何所かを尋ねたところ、知名人なのですが「あその角を曲がった、馬のいる家です」との答え。何と転入して数日でのこの知名度！

広いお宅の横の大きなブルペンとその三倍程の運動場！これを許した奥さんは多分相当な肝っ玉！！

間近に見るサラブレッドのでかいこと！サク、サク、サク、サク、と小気味良い飼葉を噛む音。

話は第二次大戦の敗戦前後の思い出にワープします。

私は茨城県の土浦市、霞ヶ浦に面した町の出身です。当時の灰色の町並みには北朝鮮さながらで、野良犬、野良猫、は殆んど見かけませんでした。今思うに多分、陰で人間の血となり肉となっていたのでしょう。

民間人の自動車は軍に徴用され、町では見かけられませんでした。

生産手段を持たない給与生活者の我が家の食を支えてくれたのが数十キロ離れた母の実家の農耕・使役馬の荷馬車だったのです。食料を荷馬車の底に隠し、上を雑貨などで覆い隠して来るのですが、途中で警察官に没収される事も度々でした。運び込んで頂いた食料の中に生きたコイと雷魚(？ライヒ？カムルチー)が有り、「コイはすぐに食べ、雷魚は防火用水(cf. *1.)に飼って置き保存食にするように」との事でした。

雷魚はぬるま湯程の水温でも平気で、水を換えると死ぬことが多かったようで、水面に手を触れると噛み付かれました。

馬車馬は帰り道は覚えており、馬任せで間違いなく帰れるとの事でした。

町の中に蹄鉄鍛冶屋が有り、屎尿は牛馬車、木の桶と肥柄杓で回収され下肥

(*2.)として完全循環していました。

路地の辻で牛や馬にばったり合うこともあり、当時の子供たちにとってもビックリものでした。

子供時代に見た景色や事物を今見るとひどく狭く、小さく思われますが、昔見た馬に比べて、目の前のサラブレッドはすごくでかいのに驚きました。

*1. B-29の無差別焼夷弾攻撃に各戸が備えた、雨水を溜めるコンクリート製の天水桶。

*2. 下肥以外の金の掛かる肥料を「金肥」と呼び、その中には大量に獲れたニシン等も含まれていました。これは冷凍設備や輸送手段が脆弱だったからだと思います。

年日の経つのは速い物で、私は71歳6ヶ月、「ヒエー」だの「アレー」だのと驚いている内に、後期高齢者間近、語り部の年齢になってしまいました。

表 題 [校庭樹の手入れ(その1)]

投 稿 日 [2010.09.26]

名 前 [彦根市 加 固 啓 英]

我が家のすぐ近くの彦根市立稲枝東小学校の植栽の管理はあまり行き届かず、樹木の病変部位や樹洞や枝の又から他の木からの実生の若木の寄生した物を多数見掛けます。

そこで私から申し出てこれらの管理、改善をさせて頂くことになりました。系統だった植物の知識の無い私(71歳6ヶ月)の余命のライフワークといたく、県立琵琶湖博物館の学芸員さんの御助言、ご指導を頂きたく宜しくお願い致します。

気になる現状と対策案は次の通りです。

1. 樹冠の頂芽付近の葉が無いか少ない樹木が見られる。

これは根元の土質が悪いのではないか。石や瓦礫が埋まっており、水持ちや通気性が悪いか踏み固められている所為ではないか。

(対策)土を掘り返してほぐす。愛知川河畔林の竹のチップの腐植質を混ぜ込む。

草刈り時に出た草は捨てずに樹木の根元に山積みにする。必要なら我が家のコンポストで繁殖するミミズを移入する。

2. 伸び放題となって人の通行の邪魔になった大枝の先を切った為、傍芽や不定芽が伸び放題になっている。

大枝の元のカラーに沿って枝打ちをし、切り口にたっぷり墨汁を塗る。

* 以下、新しい切り口には必ず墨汁で処理する。

不要な傍芽と不定芽は掻き取り、傍芽の一部は剥皮とミスゴケで高取り木で苗木を育てる。

3. 朽ちた材は削り取り、樹皮が材を巻いて成長出来るよう樹皮と材の段差を小さくする様に削る。

4. 全ての校庭樹に和名と学名入りの名盤を付ける。スズカケ類やカエデ類の様に変種名や品種名まで記載したく、サンプルを持参しますのでお教え下さい。

5. 河畔林、琵琶湖畔、里山、から野生化したチャノキや、コブシ等の実生の若木や、アカマツ、クロマツ、カエデ類、オニグルミの種子等を持ち帰り、又、銀杏からイチョウの苗を学童を巻き込んで育てる。

** これで良いものですか、学芸員さんの御助言をお願い致します。

表 題【私の湖岸散歩 - 旧草津川と葉山川の変貌 -】

投稿日【2010.10.13】

草津市 久保和友

「掲示板」2号の彦根市加固啓英さんの3つの文章に感動した。加固さんは毎日1時間を愛知川の河畔林や河床を歩いておられるという。

私も近くの旧草津川の市内を見下ろす天井川の長堤を琵琶湖湖岸の河口まで約4キロを往復自転車。また栗東市からの一級河川葉山川の長堤を。約4キロ。旧草津川はかつては桜の名所だったが廃川になってからも草津本陣あたりで約1キロほど美しい桜が残っていて花見も出来る。2つの川の長い堤を自転車で走っていると、川の変貌が楽しい。旧草津川の長堤は図書館あたりと上笠と木ノ川の間で新しく4車線が平面を通るため砂川大橋の上り下りがつぶされた。私は切断された土堤の断面砂層の美しさを年代の断面図のようなので、砂の部分を写真に撮る。下から粘土層、あと色が変わった砂層が3段ほど。

たまには、すこし遠出して琵琶湖博物館前の蓮池まで走って「枯れ蓮」の無気味さを写真に撮る。穴のあいた実の残骸、枯れ尽くし折れ曲がった茎などの怖さ。

「蓮枯れて夕映えうつす湖水かな」 正岡子規の俳句を楽しむ。



生活実験工房からお知らせ

12月19日(日)	餅つき	10時から	生活実験工房
12月21日(火)	大掃除	10時から	生活実験工房
12月23日(祝)	門松、しめ縄づくり	10時から	生活実験工房

フィールド・レポーター12月～3月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。

なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時		内 容	場 所
12月	18日(土)10:30～14:00	定例会 (講演会)	博物館交流室
1月	15日(土)10:30～14:00	定例会 (講演会)	博物館交流室
2月	5日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	19日(土)10:30～14:00	定例会 (講演会)	博物館交流室
3月	5日(土)10:30～17:00	定例会、掲示板発行	博物館交流室

(おことわり;上表の博物館とは琵琶湖博物館のことで。)

編集後記 & お知らせ

猛暑をなんとか我慢しているうちに、一気に気温の方も下がり紅葉を少し楽しんでいるうちに、枯れ葉が舞う季節になりました。初秋から晩秋の過しやすい季節が短くなったような気がします。

表紙の写真はランタナの花で七変化とも呼ばれ園芸店で見かけていましたが、12月1日に草津市の十禅寺川の土手で葛の葉に競り合うようにして、目立つ鮮やかなピンクや黄色花を咲かせていました。中南米原産で繁殖力は強いが霜に逢うと枯れるとされています。でも、幹の大きさを見ると越冬できているようです。温暖化の影響でしょうか？

今年2回目の調査「お正月あそび」の調査票を同封しました、ご家族で正月風景の移り変わりを楽しんでいただき、調査票の送付をお待ちしております。以上担当は椋島でした。



掲 示 板



2010年度 第4号(2011年3月) 通巻第62号

琵琶湖の自然とフィールドレポーター調査

多様な動物や植物は、琵琶湖の春の訪れを知らせてくれます。春から夏にかけて、水中に広がる青い植物や行き来する動物、また湖辺に広がる水をはった水田など、琵琶湖周辺によく見られる景色や自然が私たちに強いインパクトを与えてくれます。

一方で自然環境の変化にともない、これまでの地域固有の生活の営みや伝統文化も変わってきています。こうして、琵琶湖の自然や地域の文化にどのような変化が見られるのかという関心も広まりつつあります。こんな中、琵琶湖周辺では、それぞれの地域の自然・生活・文化に関する調査も非常に興味深いテーマとなりつつあります。

琵琶湖博物館では、2010年度にフィールドレポーターによる「お正月料理」や「近江の方言」をテーマとしたアンケート調査を行いました。そして、植物に関する調査については、2011年2月に「イチョウウキゴケ調査」の報告書をまとめました。多くの方々のご協力により、大変興味深いデータが得られました。皆様、是非ご覧になり、ご意見などをいただければ幸いです。

いよいよ2011年4月を迎えます。新しい年度に入って、これからのフィールドレポーター調査の内容や運営について、皆様のご意見などを是非お寄せください。

フィールドレポーター担当： 楊 平

***** もくじ *****

1	巻頭言	楊 平	1 p
2	フィールドレポーター新規募集の案内	スタッフ	2 p
3	フィールドレポーター登録更新手続の案内	スタッフ	4 p
4	捜しています	森 擴之	5 p
5	“近江ことば いまむかし”調査を終えて	村上靖昭	6 p
6	「お正月あそび」調査中間報告	多胡好武	7 p
7	雪の下では	津田國史	8 p
8	「年代と暦について」「二宮金次郎の後輩に百葉箱」	加固啓英	9 p
9	「誰でもできる反省と改名」「Pull Up 彦根市」	加固啓英	10 p
10	「レアアースを見直して」	加固啓英	11 p
11	生活実験工房おしらせ、編集後記		12 p

フィールドレポーターに新規登録される方を募集しています。

お知り合いを（ご家族も）ご紹介お願いします。

フィールドレポーターについて（琵琶湖博物館のホームページから）

開館翌年の平成 9 年から、フィールドレポーター制度を運営しています。「フィールドレポーター」とは、地域の方が自然や暮らしについて、身の回りで調査を行い、その結果を定期的に博物館に報告していただくという「地域学芸員」のようなものです。任期は1年で、原則として毎年3月後半に募集、更新すれば何年でも引き続き行うことができます。

フィールドレポーターの活動は？

[1] アンケート型調査

博物館からレポーターの皆さんにテーマと調査の方法をお伝えし、調査票に従って情報や標本を送っていただく調査です。

詳しい内容や調査票は、各調査のたびに郵送でお伝えします。この調査のお知らせには切手不要の封筒を同封しますので、調査票やアンケート、掲示板への投稿などを入れてお送り下さい。各調査は期間を決めて行いますので、締め切りまでに調査票をご返送下さい。内容的に難しかったり、あるいは調査対象を見つけられないことがあるかもしれませんが、できる範囲で結構ですので、楽しみながら調査を行って下さい。

[2] フィールドレポーター便りの発行

アンケート調査ごとに調査結果やエピソードなどをとりまとめ、レポーターの皆さんに郵送やE-mailで報告しています。

[3] 掲示板の発行

定期的に発行する「フィールドレポーター掲示板」に、レポーターが情報や疑問、呼びかけなどを自由に投稿し、その投稿に対して他のレポーターが情報や回答、意見を投稿するといったように、紙上で自由に交流していただきます。

[4] フィールドレポーター交流会

アンケートの調査のテーマごとにレポーターが博物館の会場にあつまり、資料の展示や専門家の講演を交えて自由に意見を交換する会です。開催ご案内をいたします。

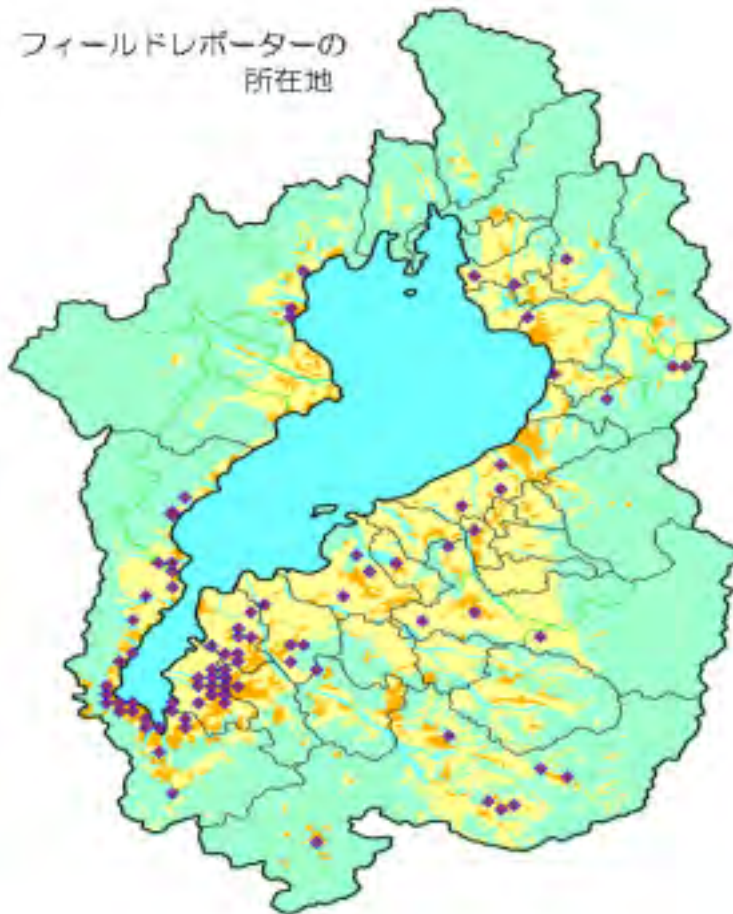
[5] フィールドレポータースタッフ

フィールドレポーター制度を運営して行くために必要な各種の作業（データのとりまとめ、調査の運営、交流会の開催準備、レポーター便りの作成や発送など）は、レポーターの中からスタッフとして参加していただける方を募り、その方たちを中心に進めています。年度はじめにあたり改めて、スタッフとして参加いただける方を募集しています。

（スタッフは年度途中でもご参加頂けますので、担当までご連絡下さい。）

2010年度のフィールドレポーターに登録されている方の状況は？

この図を見ると、レポーターの方は多くが大津、草津、守山に住んでおられます。そして、全くいっしょらない地域もたくさんあることがわかります。「近江ことば いまむかし」の調査をしたときに県内広くからたくさんのデータをいただき、湖南、湖北、湖東、湖西の地域性が見えてきました。このように県内広くレポーターがおられたら、調査データも広がり、より面白い結果が見えてくると思います。



フィールドレポーター新規登録のお問合わせ

琵琶湖博物館 フィールドレポーター担当 楊 平 までお願いします。

電話番号：077-568-4811 ファックス番号：077-568-4850

E-mail：freporter@lbn.go.jp

フィールドレポーターウェブサイト： <http://www.lbn.go.jp/fieldrep/index.html>

「フィールドレポーター」登録更新手続き、および琵琶湖博物館

2010 年度年報へのお名前の掲載の可否について

日頃は当館フィールドレポーター活動に、ご参加いただきありがとうございます。

さて、例年のように本年も、登録更新の季節となりました。

皆様には、たいへんお手数をおかけいたしますが、以下の点について別途送付しましたご案内とアンケート用紙にもとづき、ご返答いただきますようお願いいたします。

(お手数ですが必ず、3月末までにご回答ください)

(1) フィールドレポーターの登録更新について

2011 年度以降も「琵琶湖博物館フィールドレポーター制」に登録されますか否かをご回答ください。なお、住所が変更になった方...(あるいは、本年 4 月以降に住所が変わられる方)が変更手続きをされず、無駄に掲示板などが送られるケースがあるかもしれません。また、掲示板の電子版があれば、紙版はいらぬという方もいらっしゃるかもしれません。お手数をおかけしますが、再登録にご協力いただきますようお願いいたします。

(2) 琵琶湖博物館発行「2010 年度年報」へのお名前の掲載について

当館では、フィールドレポーターの皆様のお名前を「琵琶湖博物館年報」に掲載させていただいております。ご自身のお名前を 2010 年度の「琵琶湖博物館年報」に掲載してもよろしいかどうかをお答えくださいますようお願いいたします

(3) 新年度の「アンケート調査」内容について

皆さんから調査内容についてアイデアをいただき、調査テーマを決める際の参考にさせていただいておりますので、よろしくアイデアをお寄せください。

アンケートは、以下のいずれかの方法で博物館に 3 月末日までにご返送ください。

フィールドレポーター用の料金受取人払いの封筒を利用して郵送する。

宛先 : 525-0001 草津市下物町 1091 滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター係

書き込んだ用紙をファクスで送信する。ファクス番号 : 077-568-4850

メールで回答する。E-mail : freporter@lbm.go.jp

お問い合わせ琵琶湖博物館 フィールドレポーター担当 楊 平

電話番号 : 077-568-4811 ファックス番号 : 077-568-4850

E-mail : freporter@lbm.go.jp

フィールドレポーターウェブサイト : <http://www.lbm.go.jp/fieldrep/index.html>

捜 し て い ま す

あなたが使った水の量 報告書 -

2011-3-1

FRS 森 擴之

琵琶湖博物館にフィールドレポーター制度が作られた、1997年に行われたアンケート調査「あなたが使った水の量」調査結果の報告書を探しています。

お持ちの方は、お貸しいただきませんか？

お貸しいただける方が居られましたら、琵琶湖博物館交流室フィールドレポーター宛て郵送頂ければ幸いです。

宛先：525-0001 草津市下物町 1091

滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター係

今年、2011年はフィールドレポーター設立15周年といった、区切りの年に当たります。

これを機会に、これまでにフィールドレポーターが行ってきました活動記録としての掲示板並びにアンケート調査結果報告書について、取りまとめを行いたいと思います。

設立当時の資料あちらこちらから探し出しましたが、どうしても「あなたが使った水の量」に関する資料が見つかりません。

当時から、フィールドレポーターに参加されおられた方、ぜひ捜してみても頂けませんでしょうか。

以上

“近江ことば いまむかし”調査を終えて

FRS 村上靖昭

皆様方のご協力のもとに調査を終えることができました。ありがとうございました。結果のまとめが大変遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。そのまとめをフィールドレポーターだより(通巻 34 号)で送付いたしました。いかがでしたでしょうか。何とかこの優しいことばを守り続けて生きたいと念じています。

ただ、報告書の P13、3 項 2 行目の「夜:よまり」は「夜:よさり」の誤植ですのでご訂正ください。

ところで、フィールドレポーターだより通巻 34 号の送付後、その巻末(P17 20)の Appendix(付属資料の意)紙面を用いて、再び回答を寄せていただいた方がありました。申し訳ありませんが、今回の調査分析は終了しておりますので、先の調査票原本とともに今後の資料として保管します。また、その中の「近江ことばに対する思い」と、お礼状の一部を下記にて紹介します。

湖北に生まれ育ち昔より気楽なことばとして友達や近所の方々と会話する中で近江ことばが大変身近に感じ幸せを感じる
は、北部のことばが多いのでしょうか 生まれ育ったのが能登川町なのでまったく聞きなれない言葉がたくさんありびっくりしています
私などの年齢層は少年期時代、親も子も友達もよく日常的に使っていましたが、今では若い世帯も多くて標準語に近いことばが使われています。時代の流れを感じます。それなりに意思疎通もできており、今もよく使っております。
・テレビで“お江”に近江ことば(湖北の)がポロッと出てきますが何かやわらかなあたたかな感じがします。 ・信楽の方言は仕事(陶器)の関係上あらっぽいといいましたが伊賀京都に近いので影響を受けているようにも思います。 ・実家の母はお茶のことを「おぶう」といってました「おぶうをどうぞ」というふうに。 ・老人クラブの協力を得てたくさんの回答をもらいましたが全員 70 歳以上 93 歳までそして 1 月 17 日だったので近江ことばいまむかしの前回調査の結果が間に合わなかったのですが 1 月 22 日発行の「老人クラブだより」に一部抜粋して報告してもらいました。
高島地方でも、地区によってずい分と話しことばがちがうことを高学年になるにつれ(小学校 中学校 高校)つよく感じるようになった。 たのしく面白い表現だと思ったり、きたない、いやな、下品な、と感じることは他地のことばにあっても、自分がふだん使うことばには感じないのはなぜだろうと思う。 今のことばの中で一番嫌悪感をもつのは「生きざま」。なぜ「生き方」又は「生きている様子」といわないのかと。
最近のことばの乱れには悲観です。先日 TV の「各県の変った事の登録」とする番組(題は失念)で、近江八幡の女の子(三人)の荒っぽい言葉にはあきれました。あれで良いのかなという思い。最低でした。学校自体が悪いのでは?と思いますが……

「お正月遊び」調査中間報告

2010年度第2回調査の「お正月遊び」調査は県内130名、県外2名の方から調査票が送られてきました。それぞれの方々のお正月にはそれぞれの遊びがあり、その遊びにはそれぞれの思い出が詰まっているように思われました。

下記表は今年の「お正月遊び」と次の世代に「残したい遊び」について伺った結果です。遊びの相違については、地域性より年代別の遊びのほうが顕著に現れたので年代別の表にしてみました。

今年のお正月は「どんな遊び」をしましたか

年代	参加人数	男	女	こま回し	たこあげ	まりつき	すごろく	福笑い	百人一首	かるた	トランプ	花札	ビー玉	おはじき	お手玉	めんこ	カロム	ベーゴマ	スキー・ボード	カラオケ	ボーリング	麻雀	囲碁・将棋	テレビ鑑賞	電子ゲーム	板ゲーム	旅行	はねつき
20歳以下	14	12	2	2					5	5	3			2					1	1	3		2	11	13	1	1	
20,30歳代	9	4	5	3	1					1	2	1		1						1				5	2		1	
40歳代	12	6	6	1	1		1	1		4	6			1					1	1	1			9	6	2	1	
50歳代	12	4	8	1	2		1	1	2	3	3	2									1		1	10	2		1	
60歳代	22	9	13	4	2	2	4	2	7	5	12	4		2					4	5	2	2	3	17	9	2	9	2
70歳以上	61	26	35	11	5	3	9	1	12	15	19	3		1	6		1	1	2	11	4		10	40	19	1	11	4
計	130	61	69	22	11	5	15	5	26	33	45	10	0	2	11	0	1	1	8	19	11	2	16	92	51	6	24	6

次の世代に残したい「遊び」ベストスリーを挙げてください。

残したい3遊び	こま回し	たこあげ	まりつき	すごろく	福笑い	百人一首	かるた	トランプ	花札	ビー玉	おはじき	お手玉	めんこ	カロム	カラオケ	ボーリング	麻雀	囲碁・将棋	テレビ鑑賞	電子ゲーム	板ゲーム	旅行	はねつき	その他	
20以下	1	4		4		3	3	2	2						1	2	2		5	8	1	1	1		
20,30代	3	5		3	1	2	2	4	1				1					1						1	
40代	3	9	1		3	5	4	1			1	1	1					1					1		
50代	2	6	2	2	2	2	4	1						1					1		1	1	2	3	
60台	8	9	3	8	3	9	8	2		1	1	5												3	3
70以上	10	23	2	3	2	19	21	10	1			11		1	1	2		4				2	5		
合計	27	56	8	20	11	40	42	20	4	1	2	17	2	1	3	5	2	6	6	8	2	5	12	6	

上記2表が集計をした結果ですが、参加人数には大幅な年齢別の偏りが見られることから一概に表の数値が年代別の意見とは判定できないと思いますが年代別に、その年代の方々が「お正月遊び」に込める思いは伝わると思います。

詳細については近日「フィールドレポーター便り」で皆さんにお届けいたします。

雪の下では

FRS 津田國史

2月6日、湖北の「たんぼのいきもの調査」に行ってきました。長浜市内から北に回り、北陸道を西に越えて湖岸まで出るコースで、宮司 南小足 北池 当目 小今 大安寺 海老江の順に雪の下の土を採取する作業です。

宮司では、踝あたりまでの積雪でしたが、北池では、目的のたんぼまでの100mは、踏跡も無く、膝の下までの新雪を歩き、所々にひどく潜る落とし穴みたいな所が隠れていてひやりとさせられました。



ところが、調査地点最北の当目では、58 cmもあり、長靴の埋まる新雪をラッセルしなければならず、ツボ足で歩く雪道にしっかり汗をかきました。日頃、当たり前のように歩いている舗装した平坦な道の有難さを思い知らされました。

こんな雪の下で、たんぼの生き物たちは、卵の状態です。静かに春を待っているようです。雪の下に水の張っているたんぼもあり、彼らが生息し難い所と、そうでない所の違いに、水が関係しているのでは？との仮説を質すには、冬のたんぼの環境調査の必要性が判ってきた今回の湖北調査でした。



表 題 [年代と暦について]

投 稿 日 [20101207]

名 前 [彦根市 加固啓英]

昨日、書店に旧暦、年中行事、月齢、等の記載の有る来年の暦の取り寄せを御願ひして来ました。

以前より年中行事や季節感や天体の運行にかかわる行事を太陽暦(グレゴリオ暦)で行う事の無意味さを感じていたからです。太陽暦ですと「春の七草」は「みどり成す繁縷(はこべ)は萌えず」の時期ですし、「七夕」は牽牛&織女の勤務日となってしまいます。

よって来年からはこの暦を活用したいと思います。

又、公的文書に日本の年号が使われていますが、私の持論ではこれを信仰・宗教とは無関係に太陽暦に変えるべきだと思っています。理由は年号が変わる度に膨大な用紙が反古紙となっている筈であり、又、ゼロの概念も無く、一年の途中から終始する日本の年号を複数跨いだ時の計算が単純な足し算では済まないからです。

さらに、年号が変わると、歴史や考古学や古生物学の絶対年代との照合も計算しなおす必要が起きます。

時計の針を一時間早める「サマータイム」も馬鹿らしい限りです。なにも時計の針を動かし時間の呼び方を変えなくても、社会の通念として夏は勤務や学校の時間を一時間早める「サマーモード」と言ったものにすれば事足りる筈です。

昼と夜との一刻が異なる「草木も眠る丑三つ時」「明け六つ・暮れ六つ」の日本古来の時刻には付いて行きかねますが、時計に液晶表示されれば時代劇ファンや歴史小説家には欠かせない物になりそうに思います。

表 題 [二宮金次郎の後輩に百葉箱を]

投 稿 日 [20101207]

名 前 [彦根市 加固啓英]

皆さんは「百葉箱」を「ひゃくようばこ」と読みますか、それとも「ひゃくようそう」と読みますか。私は茨城県の土浦市、家内は京都府の日本海側の出身ですが、多分小学校低学年頃に習ったと思いますが、私は「ひゃくようばこ」家内は「ひゃくようそう」と覚えています。私の数十年使い込んだワープロは「ひゃくようそう」、PCのワープロソフトは「ひゃくようばこ」とキーインしないと変換してくれません。

近年、局所的気候変動による、ゲリラ豪雨、突風、竜巻、空港のダウンバースト、等が頻繁に起こり、その度に観測点の少なさが問題になります。

これを解消するには昔の二宮金次郎の銅像の様に小学校毎に簡易百葉箱を設けてはいかがでしょうか。

多分このデータにより日本の気象学、予報術、は飛躍的に進歩すると思います。

温度と湿度を表示する掛時計や目覚し時計は数社から安価に市販されていますし、カシオの登山者向けの腕時計には気圧・高度計、の表示が有り、これを組み合わせるだけで、ことさら新しい技術は必要有りません。

百葉箱は小学生の図工で作れるキットとし、日本式の1m角でなく、旧ソヴィエト・ロシア式の50cm角で充分ですが、出来れば高さ1mよりも低い位置のデータも取れるプローブを備えれば農作物の被害や路面の凍結の警報にも活用出来ると思います。

設置場所は環境を正しく把握してあれば芝生に限らず、屋上等も意義の有るデータが得られると思います。

電波時計により、観測者不在時の測定はメモリーに残り、インターネットでの送受信の出来る物とします。

* かく云う私は残念ながら「トイレトペーパーの照る照る坊主」同様、思いは有れど影響力皆無。

これに賛同され、行動力の有る方への御願いです。これを検討してくれそうな機関に働きかけて下さい。

* 気圧・高度計表示の有る腕時計は地下鉄で移動する時には退屈をさせません。

表 題[猿でも出来るが、反省と改名]

投 稿 日[20101213] 名 前[彦根市 加固啓英 今後は埋草四郎]

つれづれなるままに日ぐらしディスプレイに向かひて心にうつりゆくよしなしごとをそこはかたなくキーインすれば、あやうこそ物狂ほしけれ。

深く考えもせず投稿を続けた結果「掲示板」の紙面を大幅に独占して森林小破壊の引き金となり、済みませんでした。

又、私の拙文に過大評価のお褒めの言葉まで頂きましたが、これはカイツブリの亜種のカイカブリです。

以後は、名前を[彦根市 埋草四郎]と改名します。

今後も投稿は続けますがフィールドレポーターの皆様の興味の有るもの、関係の有るもののみを取捨選択しての掲載を御願致します。

* この文の冒頭を書き、歴史的仮名使いではワープロソフトが丸で無力なことを知りました。 新聞社などは特別なソフトを使用しているのでしょうか????

表 題[Pull up 彦根市!!]

投 稿 日[20101213] 名 前[彦根市 埋草四郎]

私は彦根市の美化・活性化・財政再建や環境改善やモラルの再構築を考える会で模索を続けております。

今、イベリコ豚風の放牧養豚やセタシジミの養殖での地域興し、近畿の夕張化の歯止めを考えておりますが遅々として進みません。

以下に付き情報が御座いましたらお知らせ下さい。

1. コルクガシのドングリ実る木の有る所、又はコルクガシのドングリの入手手段。
2. セタシジミの養殖の実例。
3. 素人の手に負える範囲の街路樹・校庭樹、の手入れの実技講習会。
4. 彦根市の銀座通りの店舗が軒並みにシャッターを閉じていますが、その多くが月一円で貸してくれるそうですが、町興しに繋がる使い道は有りませんか？

表 題 [レアアースを見直して]

投 稿 日 [20101217]

名 前 [彦根市 埋草四郎]

レアアース問題の喧しい昨今、私のおぼろげな記憶ではレアアース(希土類元素)は元鉱石としては採算の合い難い含有量では広く世界中に存在し、同一の鉱石中に元素が団体旅行様御一行の様に、メンバーが勢揃いで参加されているように思われました。

そこで、前世紀末の定年退職以来じっくり読んだ事の無い無機化学の定番の「新版無機化学(千谷利三、初版1959、全3巻)」を取り出して調べて見てほぼその通りでしたが、特に目を引いたのは産地の一つとして滋賀県の田ノ上山が挙げられている事でした。

新しい周期表には改正が有るのかと思い、ほぼ3年毎に購読している「2008年版・理科年表(国立天文台編)」も参照しましたが、これは新しい物の方が見易い配列に思われました。

海水中の濃度を「世界大百科事典(平凡社)」で見ましたが、残念ながら全元素共記載量は有りませんでした。私はアルミニウムの電解精錬の様に、冶金学・技術の常識範囲以外のトリッキーな先端技術とのコラボレーション(例えば気層反応で純物質を得る、等)低含有量の鉱石からも採算ベースに乗る技術が確立出来ないかとの思いが有るのです。

犯罪捜査犬や麻薬探知犬の様に、ここ掘れワンワンのレアアース犬等はいかがですか。

トリュフ探しやビーチコーミング等より本当の宝の山ですから当たればでかいですよ。

* 私には人に知られたくない個人情報丸で有りません。

野次馬根性の旺盛な方とタイムリーな情報交換がしたく e-Mail

address hihide.kako@gaia.eonet.ne.jp

です。

彦根市 加固啓英(かこよしひで)無職・男性・71歳

生活実験工房からのお知らせです。

3月13日(日) ふりかえり 10時から 生活実験工房前
 4月16日(土) 種蒔き、苗代づくり " "

フィールド・レポーター 3月～6月予定

次のとおり計画しておりますので皆さんご予定、ご参加お願いいたします。
 なお、予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。

日 時		内 容	場 所
3月	19日(土)10:30～13:00	定例会	博物館交流室
4月	2日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	16日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
5月	7日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	21日(土)13:30～17:00	定例会	博物館交流室
	後日案内します	新年度 第1回交流会	後日案内
6月	4日(土)10:30～14:00	定例会、掲示板発行	博物館交流室

(おことわり; 上表の博物館とは琵琶湖博物館のことです。)

編集後記 & お知らせ

3月を迎え年度末、新年度の準備と節目の月になりました。また、野外の活動にも良い季節を迎えます。何かとお忙しい時期ではないかと推察いたします。

フィールドレポーターの方にも、再登録、新規募集のご案内をしました。ご協力をお願いいたします。滋賀県内に広く、多くの方がフィールドレポーターに参加していただいて、地域の情報を発信していただくことにより、いっそう、面白い調査結果になり、掲示板になることと思います。

(スタッフ 椋島昭紘)

